

中国・大連市、上海市の社会経済発展について

——一九九一・大連・上海学術紀行——

清水 嘉治

一 まえがき

二 解放された都市・大連

——観光・港湾都市・大連——

- (1) ロシア・日本から解放された都市・大連
- (2) 観光都市・大連
- (3) 港湾都市としての大連

三 大連市経済技術開発区の性格

- (1) 外国企業優遇政策とは何か
- (2) 開発区は第二期計画に入る
- (3) 大連市における外国企業の直接投資の特徴
- (4) 日本の進出企業をみる
- (5) 労働者の賃金を考える
- (6) ある進出日本企業の悩み

- (7) 外国企業進出のための「投資手続」とは
- (8) 大連日本工業団地計画とは

四 上海市の社会経済発展を考える

- (1) 上海での研究とは
- (2) 上海市の路上とホテルで考える
- (3) 上海市は活力を求めている
 - 上海市の工業、商業、金融業、貿易の動き ——
- (4) 上海市に対する外国直接投資の問題
- (5) 「魔都」といわれた上海のまちで考える
 - 観光産業を横目でみる ——
- (6) 上海の旧租界で、改めてその歴史を考える
- (7) 魯迅の墓を訪ねる

補足資料

- 1 大連地区への日系直接投資企業リスト
(一九九〇年五月末現在)
- 2 中国の直接投資受入れ状況
- 3 中国の主要経済指標
- 4 上海日中合作企業リスト
- 5 上海日本独資(出資一〇〇%)企業一覧
- 6 上海日中合資企業リスト

一 まえがき

それは残暑の中での厳しい旅であった。心にまかせた自由な旅ではない。中国の大連、上海の開放区域の工業調査の旅であり、それなりの課題を背負った旅である。予め準備するための時間もなかった。

事務的に表現すれば、一九九一年八月二十八日から九月三日までの大連・上海両市の工業調査を目的にしたものであったが、それは単純に時間的に限定できるものではなかった。すべての調査がそうであるように、事前にそのための研究上の問題点、調査することによるメリットについての討議などを必要としていたし、現に、この両市の工業発展に関する資料を関係機関から取りよせたり、同時に、関係機関に出向いて、ヒアリングをしたり、資料の点検をした。こうした準備にかなりの時間を割いた。

こんどの大連・上海の両市のあわせた一週間の滞在は、一か月を凝縮した時間に相当したように思う。この点で、厳しい旅であった。というよりも、余裕のない仕事一筋の旅であったと思う。多分同行した海道勝稔教授も同じような経験をしたのではないかと思う。

ところで、この度の調査には、四年前、八八年四月末から五月中旬にかけての中国の吉林省の社会科学院、吉林大学、遼寧省の遼寧大学、同大学日本研究所における研交交流の経験がかなり役に立っている。この点についてわたくしは、「日中友好烈烈」というテーマで、本誌で報告した『商経論叢』第二四巻第一号、一九八八年一〇月刊）。

「日中友好烈烈」における報告を前提に、今回の調査旅行ははじまった。それも、調査対象を限定した。というの、その方が問題が明らかになるからである。

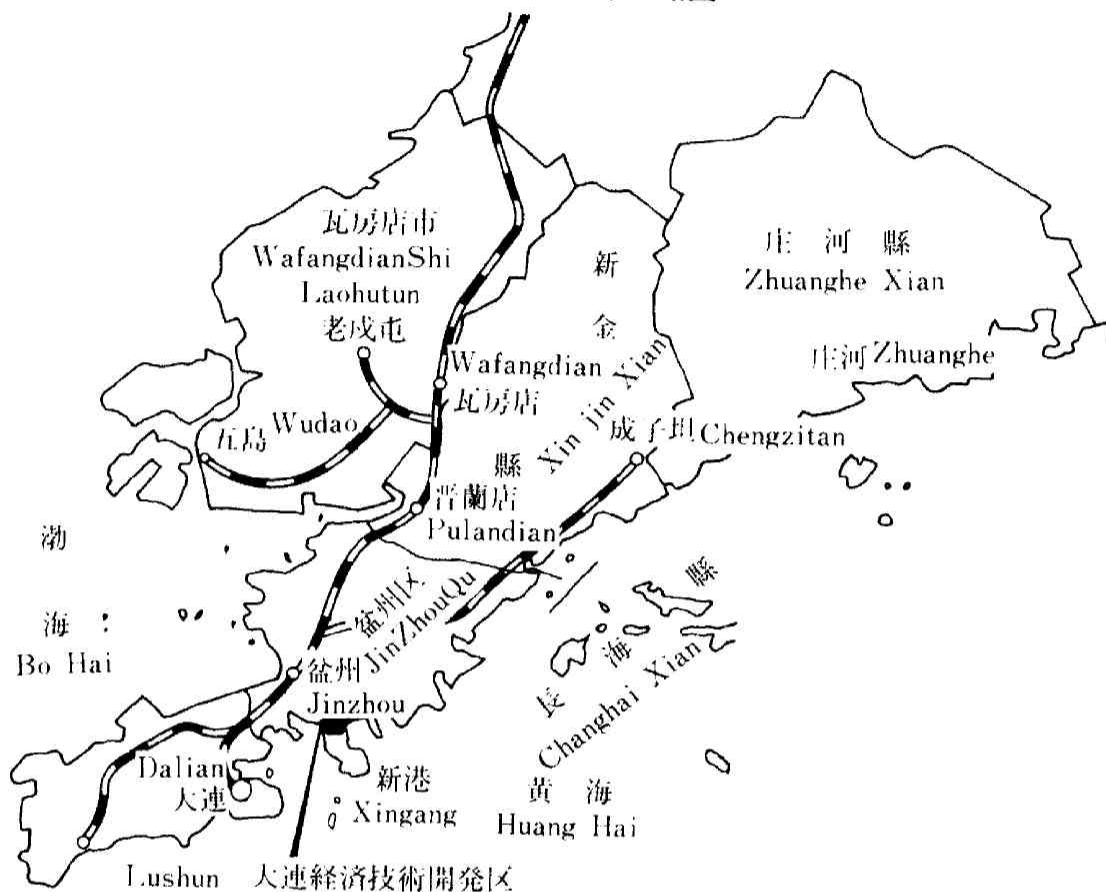
あれから四年がたち、中国の経済は発展している。とくに、四年前わたくしが調査した大連の経済技術開発区は、どのように発展したか、または定着したかを調査すること、これが今回の研究調査の目的である。一方、上海については、外資の実態と日本の資金・技術援助でできた宝山製鉄所がどのように発展したかを調査することが目的であった。だが上海については、都市社会と外国投資問題に限定せざるをえなかった。

こうした今回の調査の経緯といきさつをかいいたのは、ほかならぬ読者に対して、わたくしのスタンスを示したいからである。

つぎに、一九八九年の世界政治、経済の大きな変動、とくに東欧の「民主共和革命」、社会主義国から民主主義国への移行の中で中国はどんなインパクトをうけたのかも秘めた問題意識の中にあった。また一九九一年八月一九日から三日間におこったソ連の保守派のクーデターの失敗から、ソ連共産党の解体、ソ連における共和制と連邦制のあり方、各共和国の自己主張と主権連邦暫定国家（その後、「ロシア連邦」一九九一年十二月二五日）の問題がうづまく中で、訪中したのである。したがってこうした世界の激動を中国はどのように受けとめているのかも間接的に知りたかった。一方、世界経済の中で、アジアニーズ（新興工業地域）の八〇年代における「高成長」の中で、中国経済がどのように対応しているか、とくにその対応として中国の東部の経済開放区における工業政策の定着化がどのように進んでいるかも知りたかった。

市民科学の立場から経済学を研究するひとりとして、単純に大連、上海の工業発展の現象を調査するのではない。つまるところは、市民・労働者・知識人・商工業者の生活水準が、工業の発展によってどのように上昇しているかという問題意識なしに研究をすることはできない。今回の調査研究は、大連、上海の市民生活の状

第1図 大連市の略図



況を含めて、考えることにしたい。

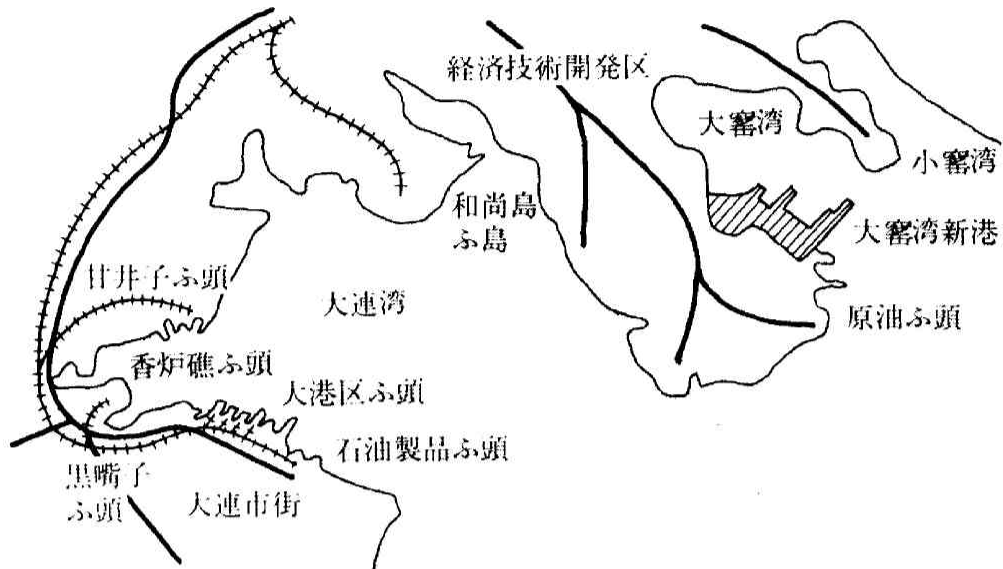
二 解放された都市・大連

—— 観光・港湾都市・大連 ——

(1) ロシア・日本から解放された都市・大連

現在の大连は、中国、遼寧省の半島南端にある工業、港湾都市である。(第1・2図参照)人口約六五〇万の活気あるまちである。このまちに入ると、猛省の念をこめて、日本の侵略史を考えざるをえない。だからまず大連の近現代略史をみることにしたい。一八九六年、三国(露、独、仏)干渉後、列強帝国主義は露骨に中国本土分割を展開した。ロシア帝国は半島南部の租借権と東清鉄道の敷設権、鉅山採掘権を獲得した。ロシアは遼東半島南部、とくに旅順・大連を租借し、九八年南満州鉄道の敷設権

第2図 大連港湾略図



(出所) 中国「国際貿易」 1990.7.3

を獲得したのである。したがって大連は、まずロシアの指導によって主要な街づくりをせざるをえなかった。現に、あちらこちらの街にロシア風の建物をみることが出来る。その後、紆余曲折を経て列強は、朝鮮・中国(当時清国)への帝国主義的支配を企図した。例えば日本は、一方で日露協定の線を残しつつ、当時の露仏同盟の離間をねらうドイツの仲介で、英国と同盟(日英同盟は一九〇二年一月)を結んだ。この同盟に刺激されたロシアは、清国と満州還付条約を結び(一九〇二年四月)、結果的に軍備を増強した。一九〇三年ロシアは、奉天、營口地区に軍隊を増強し、この地区の列国への不割譲を清国に要求した。日・英・米の列強はこれに抗議し、清朝はこれら列強の支持によって、これを断った。当時の日露交渉をみると、三九度以北の中立化、満州およびその沿岸の日本利益範囲外というロシアの要求は成立しなかった。ついで一九〇四年二月に日露戦争が起った。不幸な出来事であった。日露戦争の結果、一九〇五年八月ポーツマス講和会議は、①日本の韓国保護権を承認し、②日本に長春から旅順にいたる東清鉄道南満州支線と大連湾、旅順港の租借権を譲り、③樺太の南半分を割譲し、④沿海州沿岸の漁

業権を与える、という内容であった。

とにかく一年七カ月間にわたった戦争が終結し、日本帝国主義は韓国支配の目的を果たし、さらに中国東北部（満州）への進出をはかるために遼東半島の租借権と南満州鉄道を手中に収めたのである。こうして大連は、ロシアの支配から日本の支配に移ったのである。この点についての自覚なしに大連を語ることはできないと思う。大連の古い建物、南山路の高級住宅、大和ホテル、その他南満州鉄道会社の本部などの建物が残り、いまは大連市の所有物である。ともあれ、大連が、ロシア、日本の支配のもとにあったことを猛省したい。一九四九年の中国人民民主主義革命によって、中国人のものになったのである。この点で、大連は、抵抗と創造という歴史としてのまちである。

(2) 観光都市・大連

大連は遼東半島南端の都市で、黄海と渤海の境界の起点に位置し、山東半島と海をへだてて相望している。大連は、華北、華東そしてアジア、日本、欧州、米国など世界各地と結びついた玄関口であり、現在の中国で注目されている港湾、工業、観光都市として発展している。

大連市の紹介によると、大連市は、一市（瓦房店市）、三県（新金県、庄河県、長海県）、六区（中山区、西岗区、沙河口区、甘井子区、旅順口区、金州区）を統轄し、総面積は一二、五七三平方キロメートル、人口は五二四万人、この五年間に五〇万人も増加した。市内人口そのものは二七二万人で、五年前は二〇〇万人であるからなんと五年間に約七〇万人増加している。

鉱物資源については、戦前の日本の統治時代から豊富なことで有名である。例えば石灰石の埋蔵量も豊富で

質が良い。その他珪石、マンガン、石英石、大理石の埋蔵量も豊富で、注目されている。重晶石、石綿、ダイヤモンド、銅、鉛、亜鉛の埋蔵量も多い。国内外の工業経営者に注目されている。大連市の工業は、機械、冶金、石油、化学、建築材料、紡織、電子等多種多様の工場をもち、総合的工業都市でもある。工業地域のいくつかの有名工場を道路上からみた限りでは、工業地帯の緑化、環境整備が十分でなかった。同時に公害対策についても、大気汚染、水質汚濁などを防止する環境基準が明確ではない。この点は、今後のまちづくりにとって大きな課題となるであろう。

大連市は、四季の鮮明な温和な気候に恵まれた都市でもある。年間の平均気温も一〇—一二度前後であるという。海水浴場「海岸公園、海岸療養所」がこちらにある。私たちが、案内された星海公園は、市内から五キロメートル離れたところにあり、陸地公園と海水浴場からなっている。土曜、日曜は、満員になるという。亭（あずまや）のあしらいによって造られている陸地公園には『深海洞』があり、洞にそって石段をおりると海中に達するしくみになっている。わたくしたちは、海水浴場で、若い男女がカラフルな水着をきて楽しく泳いでいる姿をみて、中国もかわりつつあると思った。弓形の海水浴場、なだらかな砂浜、しかし小石が多く、浜砂で体を温めるというわけにはいかない。ロッカー、シャワーバス、ボート、ヨットについても、日本の昭和三年の海水浴場の風景である。まだまだ環境整備をしなければならないであろう。

老虎灘（ローコタン）公園にも案内された。大連市の東南にあり、都心から五キロメートル離れており、面積は一〇ヘクタールでかなり広い。三方を海に囲まれた天然の海浜公園である。公園内の樹々の間には、例の中国風の「あずまや」があしらわれているが、その中での『双檐亭』は、美しい。その「あずまや」のそばに

大虎人魚の彫刻と《老虎洞》がある。「あずまや」に行く西側には、露天商が並び、人で溢れている。すべて質素であり、きかざった雰囲気は全然感じられない。

こうした海岸公園も、他国の海岸公園づくりに学んで、もっと整備してよいのではないか。いや心配することはない。彼ら大連の市民が整備するであろう。もちろん日本の海岸公園づくりの尺度で考えてはいけない。多分大連市民は心をゆるして楽しみ、参加してやすらぐという手法の公園づくりをするであろう。

(3) 港灣都市としての大連

私たちが大連港を統轄している港灣局の副所長の馬守春さんを訪ねたのは、八月三十日午前十一時三十分であった。馬さんから一時間ほどの説明をきき、港灣の現代化についてさまざまな質問をした。

大連港の貨物取扱量は一九五一年に一、二〇〇万トンであったのが一九九一年には、中国第三位の五、〇九二万トンになった。輸出入貨物の取扱いでは中国最大で三、五〇〇万トン、大型港灣である。大連港は、一五〇数カ国・地域との往来があり、毎年二〇〇〇隻以上の船舶が出入りし、神戸、横浜、香港、ハンブルグ、ロッテルダム等一三の港と国際定期航路を開いているという。大連港は、主として原油の輸出、石炭、木材、穀物などの輸出をしているという。そのため、石油、精油、石炭、木材、コンテナ、雑貨の五八バースがあり、そのうち一万トン級以上が二八バースで、原油用バースは最大一〇万トン級のオイル・タンカーが接岸可能であるという。貨物積み卸しの機械化も進み穀物用アンローダーの機械化システムや大型ガントリー・コンテナクレーン等の積み卸し機械五〇〇台以上をもっている。

大連では旧港の一部が二期（第一期八二年、第二期八五―八七年）にわけ、コンテナバースに改造され、省力化

に努めているという。一九八五年に完成した香炉礁埠頭の雑貨ベース四つの使用開始によって貨物の取扱量がかなり多くなり、八八年には和尚島石炭ベースが完成した。このことによって山西省からの石炭鉄道輸送が秦皇島を経由した海上輸送が可能となり、大連市の燃料供給が容易になったという。現在の年間取扱能力は三五〇万トン以上である。また日本の小野田セメントの技術協力で、精油輸出の設備能力も充実したというのである。さらに五〇〇万トンの原油を輸入し、四一〇万トンの精油輸出ができる専用ベースも計画中のことである。また馬さんの説明によると、経済技術開発区に隣接する大窯湾新港が建設されているという。大窯湾新港は、中国政府のプロジェクトで、投資額一八億元を要するという。とくに世銀に依存し、第一期工事の深水ベース四つ（コンテナ、雑貨各二）は九二年六月に完成予定である。この完成によって、年間二六〇万トンの取扱量になる。さらに一九九五年までに第三次円借款を利用して六つ（鉱石、化学肥料各二、コンテナ、多目的ベース各二）の深水ベースを作り、年間取扱能力三一〇万トンを予定している。馬さんによると、インフラ建設とソフトの技術交流を進めていくという。ソフトの技術交流では、横浜の藤木KKと交流計画を実施していくという。

今後大連港は、経済技術開発区を中心に工業の発展と、大窯湾新港の建設を一体化して進められ、二〇〇〇年には、荷物取扱量は六、〇〇〇万トンから八、〇〇〇万トン以上になるであろう。一方大連港は、九〇年九月から瀋陽と大連間（瀋大）高速道路が全線開通し、四時間で輸送力を可能にし、遼東半島の輸送力に一大革新をもたらしたという。また山東、華東地区にも高速道路が建設中であり、大連港における貨物輸出入量を飛躍的に増大させるであろう。この点から、馬さんがいうように、大連港は中国沿海地帯の南北交通の中核の一つになり、より重要性を強めていくであろう。

馬さんの説明のあと、港務局の屋上から大連港を展望した。そのとき馬さんが港の設備について話をしてくれた。この港務局には二五〇〇人が勤務しているという。最近、下請労働者は近郊の農村に依存しているという。

港を見学して、いろいろと問題点を考えた。第一は、旧港、新港、大窪湾新港との関連性を、位置づけることが必要ではないか。港湾の機能性を多面的に考えてはどうだろうか。第二は、港湾の美観、景観を、一〇年計画で考えるべきではないか。背後地と港湾との景観を考え、港湾都市の活力と魅力を作りだすべきではないだろうか。

第三は、港湾経営の多様化を図るべきではないか。港湾を展望できるホテル、レストランなどを建設することによって港湾の多面的機能を図ってはどうか。

第四は、日本の港と交流をもって、よりソフトな技術交流を深め、相互依存と発展を図ってはどうか。

第五は、港湾労働者が、港湾経営に参加し、港湾の市民化を図っていくべきではないであろうか。

すでに馬さんはこうした問題点を考えていると思うが、あえて問題提起をしたい。

三 大連市経済技術開発区の性格

(1) 外国企業優遇政策とは何か

海道教授と一緒に、開発区の神奈川経済貿易事務所の池上嘉一所長を訪ねたのは、二九日の午前一〇時三〇分であった。池上所長の案内で、直ちに大連経済技術開発区の政策研究室の所長である唐葆文さんを訪ね、開発区のレポートをきくことができた。彼は「開発区の現状と将来」について報告し、開発区における工業、市

場、各分野の発展について具体的に述べた。現在、開発区に進出した企業数は三一〇社であり、私たちが四年前にきたときは、開発区に巨大ホテルとマンションをみただけで、企業数は零であった。あれから四年たち、三〇〇以上の企業が操業を開始しているのだからその発展ぶりは見事なものである。

四年前、調査したとき、大連市の副市長に、環境保全を前提に開発を行うべきだと助言したことを憶えている。三一〇社の進出企業のうち外資企業が圧倒的に多く二四〇社、自国資本企業が七〇社だという。

ここで、最近の資料で、開発区の概況を紹介しておく。

中国大連市および中国東北地区は、開放を必要とする中国一四の沿岸の都市の一つである。大連開発区は、合併企業、外資系工業企業、科学研究機関を集中的に誘致する方針をとった。開発区では、先進的な工業プロジェクトに基づいて、輸出による外貨獲得のための外資導入を展開し、「エネルギー低消費型のクリーン産業で、技術・管理水準の進んだ各種工業を優先的に発展させる方針」を採用している。とくに中国がすでにアジアニーズ (NIES) より、かなりの遅れをとっている知識・技術集約型の企業を重視し、大連市や東北地区全体の既存の企業や製品構造の改善、競争力の改善、向上等と密接に関連した企業を誘致し、発展させるという。とくに東北地区の資源を利用して輸出拡大に寄与する企業を発展させる。こうした工業の発展に対応して、金融、保険、商業、飲食、サービス、観光等の産業も発展させ大連開発区を国際中継貿易の拠点にしたいというのである。問題は外資をどのように導入するかである。進出企業は、企業である限り、利潤第一主義になる。それに対応して、中国側は進出企業に対する税制上の優遇措置をとっている。中国政府が定めた税法規定と大連経済技術開発区に適用される企業所得税率を低くすることによって外国企業の誘致を実施している。

大連における主な企業所得税の優遇措置をみると、企業所得税は、国の税法規定による税率三〇%、開発区

における生産型企業の税率は一五％である。地方所得税は、国の税法規定によると一〇％、大連市の規定によると、利益が発生してから七年間は免除され、税金減免期間は、合弁期間一〇年以上の企業で、利益が生じてから二年間免除、その後三年間は一五％（国の税法規定）、開発区の進出企業は、国の規定と同じく二年間免除、その後三年間は一〇％となっている。なお製品輸出企業は、国の規定による減免期間満了後も軽減税率を適用するという。開発区では一〇％である。

こうした企業所得税の優遇措置をとることによって外資企業の導入を図っている。これが大連経済技術開発区の特徴である。

唐葆文所長の報告によると、外資企業の総額は九・八億ドルであるという。金額の順位をみると、日本、香港資本、米国資本、その他の順で、業種は機械、電器、電子、紡績などの順である。大プロジェクトで目立ったのは日本のキャノンであり、その投資額は九二億円、次ぎが馬淵モーターで、その投資額九一億円である。いずれもかなり成果をあげているという。輸出比率は、製品の七〇％で所期の目的を果しているという。

(2) 開発区は第二期計画に入る

開発区は二〇平方キロメートルで、かなり広い。開発区の頂上からみた第一期の企業群の工場は実に整然と建設されている。唐所長によると、一九八四年一〇月の建設着工以来インフラやサービス施設に累計六億元以上を投資し、すでに第一期計画約一〇平方キロメートルの工業区とそれに対応した行政、生活、サービス区（学校、スポーツ施設などを含む）が開発されて機能している。

さらに開発区の頂上から開発区をよくみると、前述の外資系企業の工場だけでなく、道路、水道、電力、ガ

ス、通信、ホテル、住宅なども、整然として建設され、日本ではみられない工場景観を呈している。五〇%近く緑化計画をすれば、よかったのにと助言しておいた。第二期計画では実現してほしい。わたくしは、是非『環境アセスメント』を制定し、厳しい環境影響評価をしてほしいと思った。

第二期計画（一〇キロ平方メートル）工事は九〇年春からスタートし、九五年に完成したいとのことで、とくに第二期計画では、外国企業による工業団地開発も奨励されている。その中心部（二・二八平方キロメートル）に日本企業連合による工業団地造成計画が予定されている。

唐さんによると、日本の資本はもとより、韓国の資本も導入しているという。大宇、サンソンが進出しているという。

ここで、日興リサーチセンターがまとめた『日本企業の注目集める大連』（一九九一年三月刊）によって、大連経済技術開発区における外資導入状況を唐さんの報告とともに、整理分析してみよう。

(3) 大連市における外国企業の直接投資の特徴

大連市が開放政策に基づいて展開した外資導入政策は、直接投資の顕著な増加となって表面化した。一九八四年から九〇年末までに認可した直接投資の累計件数（大連市、開発区域を含む）五三二件、契約金額一五億七、六六一万ドルで、同、外資側の投資額八億七、七〇四億ドルである。そのうち経済技術開発区への投資が九億一、一六一万ドル、外資五億九、二二二万ドルを占めている。とくに八九年から九〇年に直接投資の件数、金額が急増している。インフラ整備の充実、進出企業の「安全性」によるものと考えられる（第1表参照）。

次に日本からの投資が多いことが特徴的である。大連市が九〇年末までに認可した日本の累計投資件数は一

第1表 1984～1990年の累計投資状況（投資形態別）

	件 数	契 約 金 額	外資側投資金額
直接投資総計	532	15億7,681万 ^{ドル}	8億7,704万 ^{ドル}
（うち開発区）	(189)	(9億1,161 万 ^{ドル})	(5億9,222 万 ^{ドル})
（うち日本）	(157)	(5億5,109 万 ^{ドル})	(3億3,142 万 ^{ドル})
合 弁	393	13億1,427 万 ^{ドル}	6億5,467 万 ^{ドル}
合 作	86	7,094 万 ^{ドル}	3,129 万 ^{ドル}
100%外資	53	1億9,159 万 ^{ドル}	1億9,159 万 ^{ドル}
（うち日本）	(13)	(1億8,000 万 ^{ドル})	(1億8,000 万 ^{ドル})

（出所） 大連市経済研究中心（1991. 1）、大連市対外経済貿易委員会（1991. 2、同）

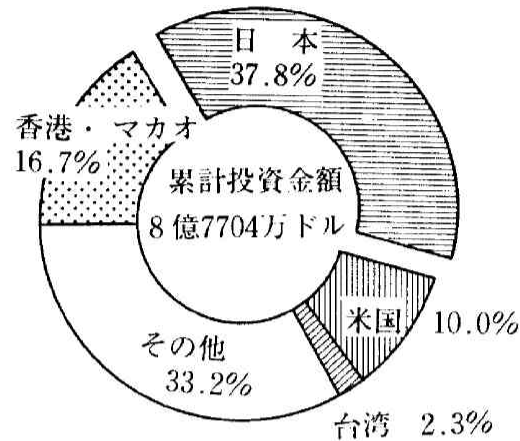
第2表 1984～1990年の累計投資状況（国・地域別）

	件 数	契 約 金 額	外資側投資金額
香 港 ・ マ カ オ	213	3億2,002万 ^{ドル}	1億4,663万 ^{ドル}
日 本	157	5億5,109 万 ^{ドル}	3億3,142 万 ^{ドル}
米 国	35	1億5,294 万 ^{ドル}	8,806 万 ^{ドル}
台 湾	53	5,224 万 ^{ドル}	2,059 万 ^{ドル}
韓 国	8	1,038 万 ^{ドル}	692 万 ^{ドル}
中国在外機関	39	4億2,592 万 ^{ドル}	2億5,920 万 ^{ドル}
そ の 他	27	6,422 万 ^{ドル}	2,422 万 ^{ドル}
総 計	532	15億7,681万ドル	8億7,704万ドル

（出所）大連市対外経済貿易委員会（1991. 2 日中東北開発協会提供）

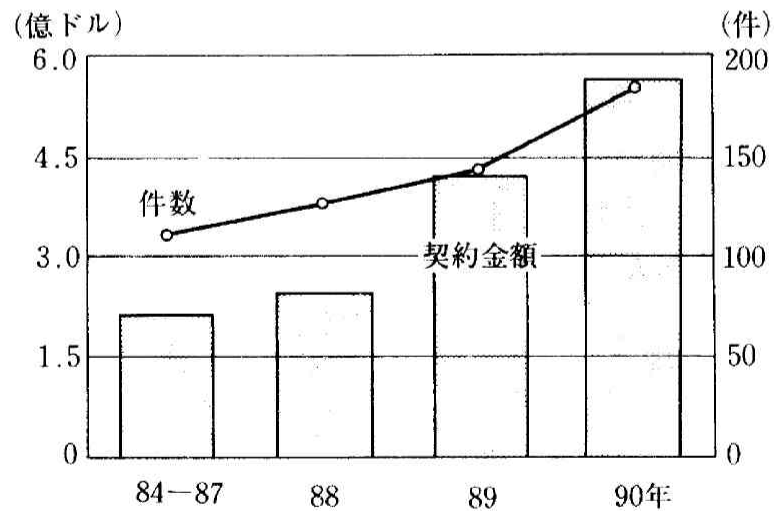
五七件で、全体の約三〇％であり、香港・マカオの資本進出に次いで第二位であるが、投資金額では、第一位で、三億三、一四二万ドル、全体の約三八％を占めている（第2表、第3・第4図参照）。日本企業の進出の理由は、優遇措置による収益性の確保があったこと、地理的に隣接していること（成田から大連市まで飛行時間四時間、港湾の整備など）、戦前日本の銀行、商社、メーカーが進出し、現地での操業の経験があったことなどがあげられ

第 3 図 国・地域別累計投資金額



- (注) 1. その他の中には、韓国692万ドル(0.8%)、中国在外機関からの投資2億5,920万ドル(29.6%)が含まれる
 2. 中国在外機関からの投資の中には、開発区の石油精製設備建設のための合弁会社設立(1件、約2億2,500万ドル)が含まれると推測される
 (出所) 大連市対外経済貿易委員会(1991. 2 日中東北開発協会提供)

第 4 図 大連への直接投資動向



(出所) 大連市対外経済貿易委員会(1990. 10)、大連市経済研究中心(1991. 1)

ている。結局、基本は企業の利潤第一主義であらう。だがそれだけでは永続きしない。現地の外資企業優遇策に対応し、現地の対外輸出増をもたらし、現地の貿易黒字に貢献し、それが循環的には地域

第3表 1990年の外国から大連への投資状況（投資形態別）

	件 数	契 約 金 額	外資側投資金額
直接投資総計	185	5億6,789万 ^{ドル}	3億8,911万 ^{ドル}
（うち開発区）	(68)	(4億6,451 万 ^{ドル})	(3億5,115 万 ^{ドル})
（うち日本）	(49)	(9,353 万 ^{ドル})	(7,958 万 ^{ドル})
合 併	127	4億6,918 万 ^{ドル}	2億9,664 万 ^{ドル}
合 作	22	1,504 万 ^{ドル}	927 万 ^{ドル}
100%外資	36	8,367 万 ^{ドル}	8,367 万 ^{ドル}
（うち日本）	(13)	(7,252 万 ^{ドル})	(7,252 万 ^{ドル})

(出所) 大連市経済研究中心 (1991, 1)

第4表 1990年の外国から大連への投資状況（国・地域別）

	件 数	契 約 金 額	外資側投資金額
香 港 ・ マ カ オ	77	1億0,500万 ^{ドル}	4,236万 ^{ドル}
日 本	49	9,353 万 ^{ドル}	7,958 万 ^{ドル}
台 湾	21	1,448 万 ^{ドル}	734 万 ^{ドル}
米 国	17	4,664 万 ^{ドル}	2,224 万 ^{ドル}
そ の 他	21	3億0,757 万 ^{ドル}	2億3,759 万 ^{ドル}
総 計	185	5億6,722万ドル	3億8,911万ドル

(注) その他の中には中国在外機関からの投資も含まれる

(出所) 大連市経済研究中心 (1991, 1)

経済の活性化をもたらすことをめざしていることを示すべきであろう。

なお、ちなみに一九九〇年の外国から大連への投資状況を形態別にみると、第3表のようになる。日本の開発区への投資が増大し、同時に合弁企業数が圧倒的に増大している。さらに独資企業の三六件も目立っている。また一九九〇年の国・地域別の投資も依然として第一位が香港・マカオ資本で、第二位が日本の資本である（第4表参照）。

また日本企業でかなり成功を収めているのは一〇〇%自己資本（現地用語で独資企業）

の企業が多いことが特徴のひとつである。前述した日本の累計投資金額の五〇%以上が全額出資によるものである。第4表でもわかるように、一九九〇年に限ってみても、日本の投資九、三三万ドルのうち一〇〇%日本出資が七、九五万ドルであるから約八五%を占める。独資企業が増大していることは、企業の成績がよいからである。合弁会社方式は、企業経営の意志決定がおくれ、どうしても生産が鈍るというのである。

(4) 日本の進出企業をみる

ところで、私たちが調査した独資企業の典型的な事例として馬淵モーター株式会社をみてみよう。

私たちが馬淵モーターを訪問したのは八月二十九日、午後二時であった。中山副理事長が工場を案内してくれた。約四八〇〇人の若い女性（平均年齢二歳）が、明るい表情で働いていた。工場は、整理整頓もゆきとどいていた。この点はまたあとでふれよう。

ここで、馬淵モーターの概況を示しておく。同社は、一九八七年一〇月二〇日、開発区の第一期地区の中心部に工場を設立した。同社の目的は、第一に、小型モーター及びその部品の生産並びに同会社生産品を販売することにある、第二は、同会社生産品の生産に必要な原材料、部品、専用設備、金型、治工具の調達及び中国国内における委託加工をすること、第三に、小型モーター及びその部品の生産に必要な原材料、部品、設備、金型、治工具を海外マブチモーター株式会社及びその関連会社へ輸出することにある。当初資本金は二億円、九〇年三月に三〇億円に増資し、総投資額九〇億円までを可能にした。九〇年に従業員四八〇〇人だったのをさらに二〇〇人ふやして、九一年末に五〇〇〇人にするという。

工場用地面積は一三万八三二平方メートル、建物面積は五万二七八五平方メートル（一九九一年）であり、

進出日本企業の中でトップレベルにある。独身者の宿舍の用地面積が二三、八二七平方メートル（八七年）であつたが現在は三〇、五五五平方メートルに拡大した。また家族用宿舍の用地についても現在三、四九六平方メートルを確保している。前記の副所長の話によると、若い女性従業員は礼儀も正しく、よく働くと、寮生活でも、共同生活を楽しんでいくという。一〇畳の部屋に六人が共同で生活し、自主的に部屋の自治を保ち、整理整頓もゆきとどいているという。その他文化、スポーツその他趣味も生かした生活をしている。もちろん一日八時間労働で、三昼夜交替で仕事をしているというのである。労働の現場をみても、皆さん明るいし、きれいな方々が多いのに目をみはった次第である。班長も女性、三つの職場を除いて、課長も女性である。全体として日本人は六人であるというから、現地の雇用を吸収し、地域経済に貢献し、現地の生活習慣にとけこみながら上手に工場経営をしていると思った。だが、この四年間で日本企業が定着したのは、従業員の労働意欲の向上、多面的な工場管理、品質の向上、労働主体の職場管理、衛生の改善などをていねいに展開したからであり、とくにそれは、経営者と従業員の協力関係によって可能であつたのではなからうか。日中友好は、いまや親善、協力から合作、共栄、創造の時代に入ったといつてよいであろう。だが同時に両者の関係は相互協力だけでなく、相互に創造的緊張関係も必要であらう。

副理事長の話では、開発区の工場で生産したものを、日本に輸出し、加工し、完成品として外国に輸出するというのである。馬淵モーターが、成功を収めたのは、すでに台湾地域、その他従来海外の三工場での経験がここ大連の工場で生かされているのではないかと思つた。また同社がその製品において競争力をもっていることは、秀れた経営力、技術力はもちろんのことだが、何といつても中国の賃金が安いことにあると思う。

(5) 労働者の賃金を考える

ちなみに、大連市対外経済貿易委員会の労働者の賃金、福利厚生（大連市区と開発区）の資料によると、賃金は月二四〇元から三〇〇元である。これには条件がある。同業の国营企業が支給する賃金の一二〇%を下回らない上乗せ部分は企業が独自に賃金を決めてもよいとなっている。賃金以外の企業内福利をみると、保険福利費は賃金の約二〇%を支払うこととある。金額にすると、四八元から六〇元である。雇用保険として賃金の一%を労働保険会社に支払う。約二・四%から三%である。退職年金として賃金の二〇%を福祉機関に支払う。約四八―六〇元である。一方、各種の補助金についてはこうなっている。①住宅手当（開発区の場合）は賃金の二五%である。したがって賃金が三〇〇元の場合は、住宅手当は七五元である。旧市区の場合は住宅手当二〇元である。②その他の手当については開発区の場合免除するとなっている。旧市区の企業は三〇元である。こうした規定をふまえて、合計すると、賃金二四〇元は、保険福利、各種補助金を入れると三五八元になり、賃金三〇〇元は四九八元になる。日本円に換算すると、一人当たりの月給は、一一、〇〇〇円から一五、〇〇〇円であるとうけとめてよい（念のため一九八九年の統計である）。現在（九一年九月一六日現在）は一元が約二五円である。

中国における進出企業の賃金は低くない。中国の一般国营企業の賃金よりも二〇―三〇%高い。日本の賃金水準を基準にしては理解できないであろう。中国では、米、麦など日本の十五分の一の価格である。それだけではない。住宅費・バス料金・電気料金なども日本に比べて一五分の一である。勤労者の通勤は、寮生活を除いてすべて自転車である。現在の中国の生活実態の中で賃金水準を考えるべきであろう。日本の進出企業の自働車の管理費（中国企業も同じ）は年一五元（四〇五円）であり、車検料年一回四〇元（一、〇四〇円）であり、

道路補修料は年一二〇元（三、二四〇円）である。自動車税は、車種によって異なるが、トラック一トン車年六〇元（一、六二〇円）、乗用車（定員七人以下）年一六〇元であるから日本円にして四、三二〇円である。自動車関連費用もきわめて安い。中国の水準で考えると高いかも知れない。また単身者で、外人用の一流ホテルをさけて大連の普通のホテルに滞在すると、外貨兌換券で一日（朝食付）一三〇元（約三、六〇〇円）である。例えば大連賓館などがその代表的ホテルである。昼・夕食を合せて日本円で一、五〇〇から三、〇〇〇円あれば充分である。

(6) ある進出日本企業の悩み

ところで問題を進めよう。私たちは、神奈川県経済貿易事務所の池上所長の案内で、開発区に進出している日清製油株式会社を訪問した。工場長の世良さんから会社の概況をきく。八八年九月に現地で操業を開始する。合弁会社で、一、二〇〇万元で中・日双方五〇%出資の会社である。製品種類は、大豆一級油、大豆粕、工業用精煉油、一般食用油、その他である。装置産業で、一九八七年、一日大豆処理量は六〇〇トン、現在は一日一、〇〇〇トン、一級油一二〇トン、原料筒倉二万トン、粕筒倉六、〇〇〇トン、貯油罐九一、一〇〇トンその他生産規模はかなり大きい。世良さんは学生時代東大の揚井克巳教授のゼミ出身で、本学の石崎昭彦教授の後輩であり、私たちに親み感をもって自由に話をしてくれた。

世良さんの話によると、かなり成功しているという。それにはわけがある、戦前この企業が大連に進出し、当時一流の仕事をした経験が、「成功」している理由なのである。だが合弁企業であるため、生産、流通、輸出の諸過程の意思決定にかなりの時間をとるといふことである。この点が独資企業と違うといふのである。そ

れだけでなく、税制その他優遇措置をとって貰っているが、先方の税制のうけとめ方と日本のうけとめ方の相違などがあって、かなり苦労しているという。現地企業が現地の習慣、制度、文化、法制度、企業経営の性質などについての理解をいかにするかにたえず悩んでいるという。とくに現地で操業し、安定しつつあるときに、新たな難問にぶつかるといのである。この点を、現地駐在事務所が親身になって助言をしてくれているようである。現地で、県の経済貿易事務所の働きぶりがよくわかる。ここで大連における日本企業の進出状況を本研究ノートの末尾に補足資料として示したい。

(7) 外国企業進出のための「投資手続」とは

ここで、日本企業の大連進出のための「投資手続き」にふれてみよう。

①外国企業と大連市の企業が協同で経営する場合、両者が合弁・合作意向についての協議書を締結し、第一段階のフィージビリティ・スタディ（企業化調査、または採算可能性調査F/S）、すなわち両者がその事業について、技術の面で、市場の面で、建設の面などでそれぞれ採算がとれるかどうかについての報告書を作成する。第二段階では、中国企業が第一段階をふまえた資料に基づいて作成した文章を大連市対外経済貿易委員会あるいは県、区の対外経済貿易部門か企業行政管理局のいずれかに提出し、プロジェクト登録の申請を行う。これに対する回答は三〇日以内に出される。第三段階は、申請が認可されれば、外国側企業と中国側企業が共同で、フィージビリティ・スタディ（F/S）報告書を作成し、双方が署名の上、中国側が署名済みのF/S報告書を大連市の関係部門に提出し承認を求める。第四段階は、F/S報告書が認可されれば、中国側、外国側企業の双方が契約・定款を作成する。双方が大連対外経済貿易委員会の審査を経て署名する。第五段階は、

中国側の企業は大連市の対外経済貿易機関に、契約・定款を提出し承認を求め、承認された後、合併・合作企業の認可証が出される。第六段階として中国側の企業は、認可証を取得後三〇日以内に大連市工商行政管理局で、営業許可証を受け取る。第七段階として、営業許可証を受け取ったあと、銀行に口座を開設し、各所轄の部門で税務、外為等の関係手続をする。さいごに施工準備、工事施行をしてよいことになる。それではじめて稼働する。この手続は、中国側企業、外国側企業とが相互信頼関係を保持するためのものであり、双方が損失しないように、また共同経営が円滑になるための確認であるといつてよいであろう。

次に独資（一〇〇％外資）企業の場合の手続きについてみよう。

外国企業が一〇〇％資本をだして企業を設立する場合、外資企業の代表が大連市対外貿易委員会に申請するかまたは中国の知人、コンサルタント・サービス会社に申請の代行を委託する。事務的には、申請に必要な書類は次のものがある。①独資企業設立申請書。A申請者（会社）の基本状況、例えば、名称、住所、経営範囲、生産規模、資産総額、資本金、財務諸表。②大連に設立を予定する企業の基本状況。例えば、総投資額、資本金、資本構成、必要な土地面積、経営範囲、経営期限、生産規模、原材料・部品の出所、製品の用途、販売市場、輸出比率、外資バランス計画、財務制度。③プロジェクト建設と実施計画。例えば、使用する技術や設備、水、電気、ガス、燃料などの使用量、廃棄物の処理基準と安全基準、建設速度、生産開始予定、大連及び海外で購入する原材料等を明記する。

さらに外国企業の大連での登記証明と銀行の資本信用証明書を必要とする。以上の書面申請によって許可される。そのあと「外資企業認可証書」が発行される。この認可証書を受け取ったあと、三〇日以内に関連の登記管理方法に基づいて、大連工商行政管理局で登記登録手続を行い、営業許可証を受け取る。このあと銀

行に口座を開き、各所轄の部門で税務、外為等の関係手続きを行う。

現地で、合併企業の経営者、独資企業の経営者にきくと、いずれも一長一短があり、どちらの方式がよいと一口にいえませんが、独資企業の経営の意思決定が早くできるのに対して、合併企業のそれは遅いという点に違いがあるようである。

わたくしは、合併企業であれ、独資企業であれ、大連市当局が環境保全に関する契約書も条件のひとつにすべきではないかと考える。

地球環境の危機に対する中国政府の受け止め方が甘いような気がする。企業の工場稼働の前提として環境保全対策を義務づけることが大切なのである。この点が今後の課題であらう。

わたくしは、「日中友好烈烈——訪中学術紀行——」（『商経論叢』第二四巻第一号、八八年一〇月刊、五二—六三ページ）で、大連開発区の企業導入法を紹介した。今回は、その具体的定着化の問題を中心に展開した。前回の論文で、開発区の目的についてこうかいた。開発区は中国经济特区の政策と新型管理体制を實行し、大連と東北地区の利点を活用し、先進的な技術・設備の導入と科学的な管理経験とを結びつけ、外資導入・対外連合と結びつきの原則に従って、計画的に、段取りを追って新興産業を設立し、新しい技術・製品を開発し、外向型経済を發展して、大連・東北地区ないし全国の技術の進歩と経済の繁榮のためにあると。ここで明らかなのは、新しい自主的管理体制を多様性をもって實行すること、外国資本の導入と合作経済を計画的に實踐し、先端技術産業の發展を志向し、対外競争力を強化することにある。

こうした考え方を具体的に実践している。開発区の第一期計画の完成がそれである。この計画で日本の企業の活躍は、かなり評価されている。九〇年春から経済技術開発区の第二期計画が実施された。この計画は、と

くに注目する必要がある。というのは、日本企業進出計画が、従来の成果に基づき期待されているからである。

(8) 大連日本工業団地計画とは

第二期建設計画の中で、開発区の中央部(約二・二八キロ平方メートル)の区域を銀行、商社を中心とする日本企業グループの資本によって造成し、工業団地を建設しようという構想が日中両国政府の支援の下で進められている。この計画の背景には、中国企業が東南アジアにおける競争力を強化することにある、そのためには資本不足の中国企業にとって、外資系企業に開発を依頼し、外資系企業が投資しやすい環境をつくる方式をとった。そこに第一期計画でかなりの成果を収めたといわれて日本企業グループに工業団地計画を許可し、つぎのような優遇措置を定めている。

一、工業団地開発についてのとりきめについては次のように定めている。

① 工業団地についての司法権、行政管理権、通信などの公共施設の管理権は中華人民共和国と地方政府にある。

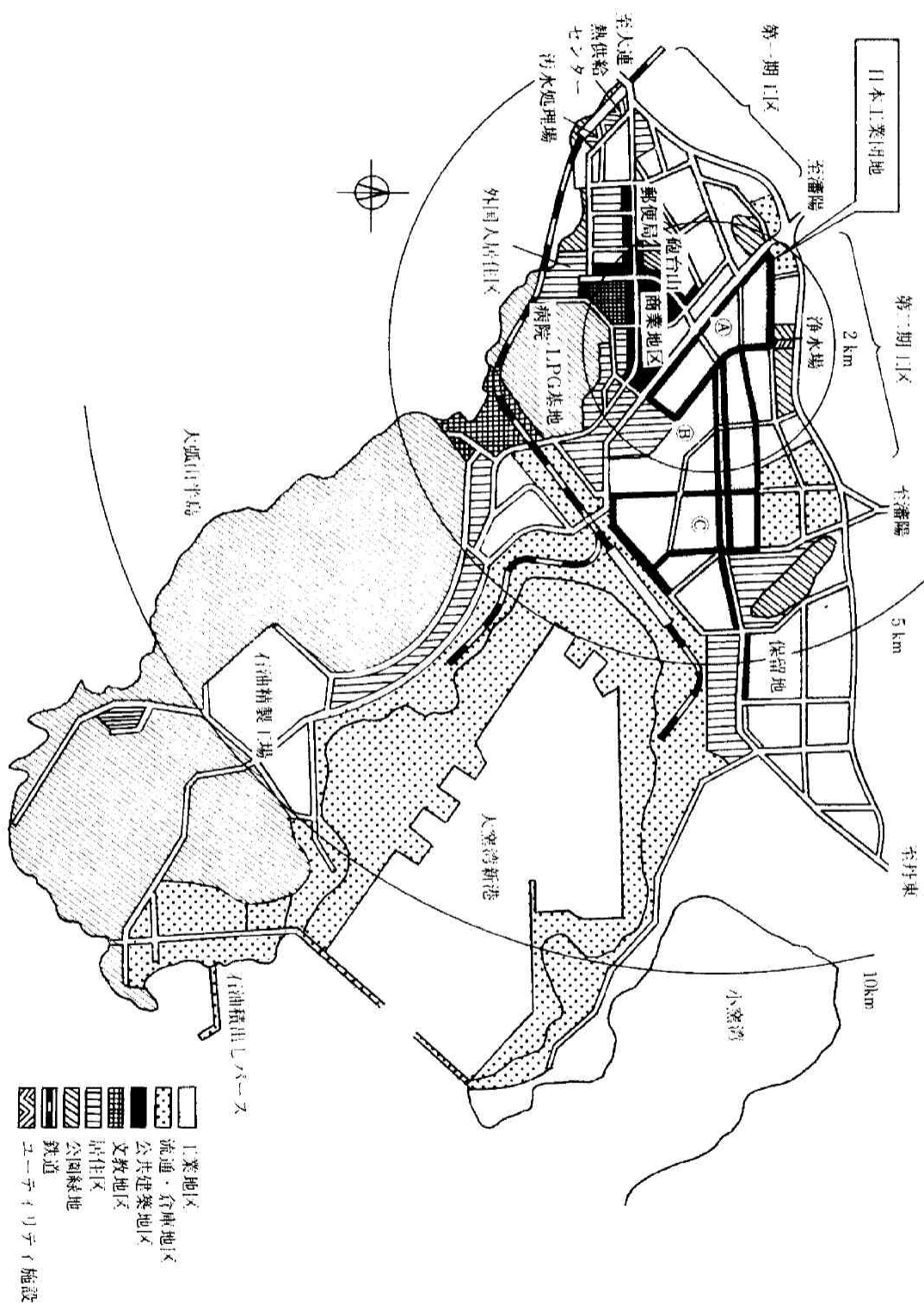
② 外国企業は土地使用権を取得する前に中国企業としての法人格を有する開発会社を設立した上で、土地管理部門との間で土地使用権について有償譲渡契約を締結する。

③ 工業団地の全体計画は開発区の全体計画に照合し、かつ計画部門の認可を必要とする。

④ 工業団地開発公司及び団地に誘致される外資系企業は開発区におけるあらゆる外資優遇政策を享受できる。

⑤ 土地使用の有償譲渡期間は五〇年間とし、土地使用権の保有者は経営の状況に従い土地使用権を譲渡す

第5図 大連經濟技術開發區第二期計画における日本工業団地



(出所) 日興リサーチセンター『日本企業の注目を集める大連』1991年3月、41ページ

ることができる。

第一点および第三点、第四点については問題はないであろう。第二点の土地使用权について有償譲渡契約についての内容が明らかにされていない。この点は、両者が問題にする点であろう。前に示した『日本企業の注目を集める大連』によると、

「中国側の主張する土地使用権の譲渡価格と日本側の希望との間に大きな乖離があることである。中国側の主張する価格が五〇年間の譲渡を前提として計算されていることや、譲渡価格の一部を中央に上納しなければならぬことなどがその理由と思われる」この叙述をみる限り、五〇年間の土地使用の有償譲渡期間が、従来の企業経営の基準では、考えられないという点ではないかと思われる。

問題は、有償譲渡期間は、相互信頼のもとに企業の収益と現地への貢献度などをみてから決めるべきであろう。例えば五年毎に、F/Sの実行が、どの程度なのかについて両者で検討し、決めるべきであろう。中国側も日本側も、工業団地全体の環境保全と地域利益に貢献することを前提に、それぞれの利益を対等にしていく方式を生みだすべきであろう。両者とも、福祉・環境と成長が両立する新しい開発方式を生みだしてほしいものである。

ここで、補足しておきたい。中国の大連工業団地開発に対して、日本政府が積極的に取り組んでいる「姿勢」である。政府は、大連工業団地開発事業に公的資金を提供し、日本と中国共同の国家プロジェクトとして位置づけている。一九九二年二月を目標に日本が海外経済協力基金として大手商社と共同して、大連工業団地開発にのりだし、同時に中国側は大連当局が出資するというのである。要するに日本政府と大手企業と中国国有企

業とが共同で、大連工業団地の開発にのりだすという。そのため、日中合弁会社は約一五〇億円の総事業費を負担し、進出企業への用地売却などを回収するという。

日本経済新聞（一九九二年九月二六日）によって要約すると、当面の日中合弁会社の出資比率は日本が八〇%、中国が土地など現物出資で二〇%で資本金は二〇億円にする計画で、日本側は一六億円で設立する。海外経済協力基金と民間企業約二五社が八億円ずつ折半出資する方向で調整しているという。日本の民間セクターは伊藤忠商事、三菱商事、丸紅、日本興業銀行、東京銀行の五社が中心となって工業団地開発にのりだすという。中国側は日本政府の出資が実現すれば、技術水準が高く競争力のある外資系企業の誘致につながると判断し、大連市当局もそれに応じたようである。

この点は、日本政府の上海市・浦東地区の工業・商業地域開発など中国沿岸部の対外開放事業促進事業推進のモデルになるといわれている。日本政府の浦東開発は、第八次五カ年計画（一九九一―一九九年度）の中核プロジェクトで、中国政府は一、〇〇〇億円規模の資金協力を求めている。もし大連の工業団地開発の事業が軌道に乗れば、浦東開発に対する日本政府の出資にも弾みがつくというのである。

中国の大連工業団地開発への日中のテコ入れは、注目したい。この開発方式が、日中の政府と日本の大手企業の開発方式を、市民次元に還元し、市民所得の向上にどのように役立つかも検討すべきである。とくに環境保全を前提にした開発を示すべきである。

以上、大連での工業調査を環境の保全の問題を前提についてみたが、今後とも、私たちは、中国における日本企業の工業開発のあり方を考えながら、新しい意味での国際経済協力の中身を示すべきではなからうか。

四 上海市の社会経済発展を考える

(1) 上海での研究とは

大連での研究調査をおえて、八月三十一日午前八時二十分、大連空港から上海空港に向った。この際にも、県の池上所長が送ってくれた。所長の仕事熱心さに、改めて敬服したい。

三十一日午前一〇時三〇分中国民航機六五二三で、上海に着く。機内のサービスはよくなかった。時間もかなりルーズであった。大連の国内空港も、上海の国内空港も、いま改造中である。日本並みに整備するのには、あと十年かかるかも知れない。いや日本の基準で考えてはいけけないのだ。とにかく懸命に頑張っていることだけは確かである。

私にとって上海は、初めてである。上海については、いろいろな本や映画、テレビなどで、あるおぼろげなかたちと雰囲気知らされている。なにか中国の大きな玄関口で、魔力と魅力と精力をもった都市であるという印象があった。だから期待していた。

わたくしたちの、上海での仕事の目的は、宝山製鉄所の調査と日中合弁会社の企業の調査にあった。この点は、海道教授の報告にゆづることにする。

わたくしは、上海のまちづくりを主として取り上げる。いまの解放された上海を語るには、戦前の上海からみなければならぬと思った。だがはじめに、私たちの生活体験からはじめたい。そして上海の現状をみ、そこから歴史をみたい。上海空港には、日本で依頼した関西国際旅行社と契約している中国国際旅行社の社員が迎えにきてくれた。雑踏の中で、上海市の住所、二〇〇〇四〇南京西路一三七六号のポートマンホテルに直行

した。途中の街路は、雑然として、空も曇っていたせい、ほこりの中の街という感じであった。ホテルは、米國資本とシンガポール資本との合併で建設した近代的ホテルで、かなりあかぬけていた。東京のホテルオークラといったところである。ときには、このホテルの中の私たちの生活と、近隣の上海市氏の隔絶した生活に、言いようのない空しさを感じた。このホテルで非近代と近代の同時的存在の中に投げ込まれた自分の空しさの中で、求めるある活力をどう生かしたらよいかを考えた。ホテルの一四階の十九号室に案内されたとき、何か、東京の一流のホテルに着た感じてあった。九〇年夏滞在したロンドンのあの安ホテルとは、雲泥の差である。同じ料金で、いや、ロンドンの三流ホテルは七五〇〇円なのに、このポートマンホテルは、すべて完備して、同僚の教授と二人で、一万二千円である。一人六千円である。中国式ホテルは、いぜんとしてツイン以上である。最近まではシングルルームを認めていなかった。ところが滞在してわかったことは、外国の企業の進出について独身者が多くなり、シングルルームを作るようになったという。それも八千円程度だ。中国人にとっては、とても利用できない値段である。

ホテルで一服したあと、横浜で約束しておいた、市の上海駐在事務所を歩いて訪ねる。歩いて十数分というから車を使わなかった。ところが、何と歩いて三〇分はかかった。

ホテルから延安中路、淮海中路を渡り陝西南路を歩いて、端金大厦に到着した。

(2) 上海市の路上とホテルで考える

ホテルから端金大厦までの状況をもう少し詳しくかいておく。ホテルで少し休んでから外にでる。ところが二歳ぐらいの幼児を抱いた三〇歳代の男性が私のところに迫ってきた。「物乞い」である。少し異様な気持ちに

かられる。瑞金大厦をめざしていく途中の商店街も、にぎやかであった。猛暑のせい、商店街は群衆で溢れていた。ちょうど戦前、日本の地方都市や、東京の浅草にでている路天商の群を想い出した。売る人、買う人の肌を汗してのコミュニケーションの商いである。一方で、商店の屋根下から横に物干しざおをだし、下着類を干している光景をみる。裏庭がなく、路上に面して干す以外にないのかもしれない。

途中、瑞金大厦の場所を地図で示しながら道をきくと、四、五人が寄ってきて教えてくれる。話す中国語がよくわからないので、地図に指をさして答えて貰う。皆さん親切である。また商店の販売員が、立ちながらアルミの弁当で、昼食をしている光景も、実にのどかで平和そのものである。民衆の生活は、形容矛盾だが実に忙しく、悠長である。

こうした光景に接しつつ、からだは汗だくで肌着は濡れ、汗水が上着に滲みついているのを忘れ、約三〇分歩いて瑞金大厦に着く。ここには日本の商社、銀行、日航の支店があり、横浜経済事務所も一四階にあった。

川地所長、金子副所長と宝山製鉄所視察の打合せをする。二人とも親切に歓迎してくれる。土曜日なのに、私たちのために午後までつきあってくれる。当日、午後三時から通訳の案内で、市内見学、市民生活視察の予定を組む。所長から二、三の上海についての文献を頂いた。その中の『上海投資指南』（上海市外国投資工作委员会編、一九九二年二月刊）は貴重な、有益な文献であった。

次に、それに基づいて、上海の概況を紹介したい。

(3) 上海市は活力を求めている

——上海市の工業、商業、金融業、貿易の動き——

上海市は広い。そして深い。近代と非近代が混然と同居しているまちである。上海市は南北約一二〇キロ、東西一〇〇キロの範囲に総面積六、三四〇平方キロ（市街区域七四九キロ）もある巨大都市である。人口は、一三三万人、うち市街区人口は、七七八万人で、世界有数の都市である。上海市内には行政区が一三、県が九ある。一二区は、黄浦、南市、盧湾、徐匯、長寧、静安、普陀、閘北、虹国、宝山、閔行の各区、九県は上海、嘉定、川沙、南匯、奉賢、松江、金山、青浦、崇明の各県である。広域市である。日本の都市と逆である。市内に、区、県がある。日本のように県内に、市（区）、町村があるのと違う。一九九〇年一月二〇日の華東新聞及国内新聞によると、大学卒業者が約八七万人、中卒六八二万人、小学卒三〇二万人とあり、上海の文化程度の高さを示している。一方文盲、半文盲者の全人口比は、約一％で、八二年の一四％からみると、低くなっている。これは驚くべき数字であり、いかに教育に力を注がなければならないかの事情がわかる。多分、郊外部において、労働に多忙で、学校に子弟を送れないという状況があるからであろう。

上海の工業をみると、一四〇年の歴史をもっている。現在、全市の工業企業数は、一万三〇〇〇余であり、うち郊外の工業企業数は六六〇〇余である。業種は、冶金、化学、機械、造船、電子、計装、紡織、軽工業、医薬など四〇〇余りに及んでいる。最近の十年の間には、新型金属材料、高分子合成材料、電子計算機、精密計測器、精密工作機械、石油化学など新興工業が発展している。

前述の『指南』によると、上海の工業の特徴は、業種が多様性をもっており、分業がかなり進んでいる。比較的進んだ生産技術と良好な経済効益をもっている。また上海には、相当数の大型基幹企業と多くの中小企業

があり、それらが相互に補充、協力しあう水平分業の関係を形成している。この点で、上海工業生産全体は、現実のニーズに対して、適応性、柔軟性、多様性に富んでいる。歴史的に国際市場との連けいも緊密であり、外国から原材料を輸入している一方、加工製品の三分の一を輸出している。この点がメリットであろう。

一方上海工業に従事している人は、約三七〇万人で、専門技術者、知識をもった熟練工、企業管理スタッフ、技術者が含まれている。その意味では、上海は外国の先駆的な技術と管理の経験を吸収し、生産技術と経営管理の水準を向上させる条件を備えているという。とにかく、上海市民は、国際化に敏感であり、行動力をもっている。

一九八九年の上海市の工業総生産額は一一一四・八三億元で、全国の工業生産額の六・九%に相当する。そのうち郊外各県の工業総生産額は二六四・七二億元である。軽工業と重工業の比重は、前者が六一三・二八億元（五五%）で、後者が五〇一・五五億元（四五%）である。企業規模で見ると、大型企業は工業総生産額の三七・六%を占め、中型企業は一八・一%、小型企業四四・三%を占めている。九〇年の上海市の工業総生産額は一一五五・四六億元で、八九年に比べて四・〇%増加した。ついでに農業にふれておく。八九年の農業総生産額は二六・七五億元であった。品目にみると、食糧二三六・五五万トン、綿花〇・七七万トン、ナタネ一五万トン、野菜一九三・七二万トン、豚肉二〇・二万トン、牛乳二〇・〇五万トン、水産品二九・六六万トンであった。主な農作物である水稻、小麦、綿花、油料作物、野菜などで、単位面積収穫量では中国最高の地区のひとつであるといわれている。

つぎに商業・金融の動きをみてみよう。

上海は、まだよく整備されていないが、商業の一大中心地である。街を歩いても、商店にかなりの人で溢れ

ている。もちろん、商業の途上国であり、商店のインテリアデザインはおこなわれている。八九年の小売総額は三五二・七九億元である。現在、商業・サービスの店舗数は一二一万余で、従業員数は六七万人余である。上海人は商いが好きである。

また金融業は、解放後、国有中央銀行を中心に国家の専業銀行が主体として発達している。多種類の金融機構が併存している新しい金融システムを形成している。上海の中央銀行の役割を果たしている銀行が中国人民銀行上海市分行である。この銀行が上海地区の金融の一切を管理している。また「主に都市、農村の工商信用貸し、貯蓄業務と各種類の外貨業務を行う中国工商银行、中国農業銀行、中国銀行、中国人民建設銀行などの上海分行、株式制を実行した交通銀行と中信実業銀行、都市と農村の集団所有経済、国営の請負企業と个体経済に金融サービスを提供する二四七社の集団的所有制の都市と農村信用合作社、二〇社の信託投資公司、保険公司、証券公司、リース公司などの非銀行金融機構がある。その他、四社の僑資、外資銀行、二社の中外合弁財務公司と三五社の外資銀行と証券公司の上海事務所がある。

また対外貿易も活発である。一九八九年の輸出入総額は七八・四八億ドルで、うち輸出額は五〇・三二億ドルに達した。輸出の業種別内訳は、農副産品一四・九%、軽工業・紡織品六一・九%、機械・電気・計装・化学・冶金など工業製品が二三・二%となっている。年間輸出額一〇〇〇万ドル以上の品目は、綿布、綿・テトロン布、毛織物、衣服、シルク製品、タイヤ、鋼材、建築材料、医薬原料、化学原料、工具、免毛など七〇種以上に上っている。

一方主な輸入品目は、鋼材、鉄鉄、非鉄金属、化学原料、木材、羊毛、合成繊維などの原材料及び機械・計測器、医療機器、カメラなどである。上海の貿易は、工業の発展に対応し、同時に上海人は外国商品の活用に

活発である。これは伝統的性格である。

(4) 上海市に対する外国直接投資の問題

上海市は、中央政府の直轄都市であり、開放政策の有力な都市として位置づけられている。一九九〇年、上海市で外国企業と中国企業の投資協定が批准された直接投資プロジェクトは二〇一件であり、外資導入額は、三・七四億ドルである。累計プロジェクト数は、九一〇件である。その累計額は二八・八一億ドルである。合弁合作企業は、一二六件であり、その外資導入額は一一・五二億ドルであり、外国独資企業は四二であり、その外資は約三億ドルである。外国直接投資の第一位は、香港資本であり、第二位はアメリカ資本であり、第三位は、日本資本である。香港資本がいかに大きいかは、プロジェクト数の約五〇%、投資金額の約三〇%を占めている（一九八〇年代後半の外国直接投資状況は末尾の補足資料を参照されたい）。

九〇年に批准された外国直接投資のプロジェクトの主体は製造業である。前に示した『指南』によると、批准された二〇一のプロジェクトの中で、工業プロジェクトが九三%を占めている。総投資額五〇〇万ドル以上の企業が一〇企業である。それらは、米国のジュポン、AT&Tなど多国籍企業との合作企業である。工業プロジェクトの業種は、軽工業、紡織業、機械、電子工業である。とくに最近上海市が重視しているのは浦東に対するプロジェクトである。この地区に外国投資企業が五五社、約三億ドル投資している。さらに海峡両側の経済・技術交流の進展にともない台湾の独資企業の進出が目立っているという。

上海市は、今後も外国企業に開放政策をとり、とくにハイテク、高付加価値のプロジェクトを導入し、アジアニーズの国々の資本との競争力を強化していくものと考えられる。

ここでは、閔行、虹橋経済技術開放区と漕河泾新興技術開発区、浦東新区の概況については省略する。上海市が外資導入を進め、一方近代化を図りつつ、他方で従来の伝統的工業との整合性をどのように図るかが注目されるであろう。問題は、日本企業の資本導入についても、現地での対等平等、相互繁栄、相互依存、相互協力、合作を、びとつひとつ、経営の合理的精神をもってどのように定着させるかにある。上海市の工業の発展は、一面で、無限の発展の可能性をもっている。とくに環境保全を前提にした成長をどのように具体化するかである。このことが市民生活を潤すことになるであろう。

(5) 「魔都」といわれた上海のまちで考える

——観光産業を横目でみる——

私にとって上海は、複雑な魔都であり、半ば魅力のあるまちであり、庶民の情念に溢れたまちである。ポー・トマンホテルで、案内図を広げる。蛇のように曲りくねっている黄浦江（ホアンブージャン）は、このまちの人々を外に開き、内に吸収する底深い魔力をもった川である。よく地図をみるとこの川は、四〇キロ先で長江（チヤンジャン）揚子江（ヤンツージャン）に合流している。それに西の方から市を横切るようにして黄浦江に流れている曲りくねった川がある。これが呉淞江（ウーソンジャン、旧名蘇州河（スーチョンフー））である。わたくしは、少年の頃「蘇州夜曲」を憶えたことで知っている。黄浦江と呉淞江の二つの川と南北に走る線路に囲まれた雑然とした地域が上海市街である。日本で出版されている中国・上海の案内書には、この中に市の観光名所の九割が入っているという。たしかにそうだ。豫園、人民広場、外灘（ワイタン）、王仏寺、工業展覽館、中国共産党第一回全国代表大会跡、錦江飯店などがある。

ところで、私たちは、八月三十一日、土曜日だったので、午後、市内の各所と市民生活をみることにした。私たちが頼んだ通訳の方に、前に書いた瑞金大廈からクルマで二〇分程した「龍華寺」を訪ねた。これは海道教授の推せんであった。三国時代に東呉の孫権によって建てられたという。太平天国の乱で、この建物は焼失し、現在の建物は、清朝の建築様式であるという。この寺の由来は、釈迦の常子である弥勒菩薩がこの龍華樹の下で仏様になったという伝説からこの名がつけられたという。境内の天王殿には弥勒菩薩を始め四天王などの仏像がある。通訳の方は、よく願をかけていた。この寺の龍華塔は、四〇メートルの七層八角の塔である。もっと整備できないのかなあと思ってこの寺をあとにした。ここで、車に忘れものをしたことに気がついた。少し恥をかいた。だが通訳の方のお陰で、それはでてきた。安心できるまちであると思った。

このあと、私が望んでいた孫文の旧家を訪ねた。この旧家の書棚には、三民主義を主張した背景の欧米の文献が陳列してあった。資産家出身で、民衆の立場から、実によく中国の近代化の原典を創造したかがよく理解できる。当時、貧困の上海のまちの中で、あれだけの余裕ある住居で、よく三民主義を構想できたのかと思った。それから「一大会址」を訪ねた。きくところによると、一九二一年七月一日、この地で、フランス租界のある民家（現在、興業路七六号）で、中国共産党第一回全国代表大会が秘密裡に開かれたという。当時、黨員五〇人余、このなかに湖南省代表の毛沢東がいたという。二階建てのレンガ造りで、モダンな建物である。だが、この建物の近くの民家は、庶民のまちであり、古ぼけたねんどで作った小さな家と零細商店の群であり、お年寄り、半袖で、のんびりとうちわを手にして身を煽ぎつつ、細い路地をながめており、若い主婦は家族の洗濯物を街路に干していた。貧しいというより、質素な生活街のなかに、「一大会址」を記念したことも、歴史的である。当時上海は、外国資本の全一的支配にあった。そのなかで、中国共産党が、よく抵抗し、解放

のためによく闘ったかがわかる。共産党は、人民の立場で貫く限り、光っている。だがその後の運営が民主的であるかが問われているのである。ソ連の共産党の「解体」は、その民主主義的運営を怠ったところに最大の欠陥があったことを示している。中国共産党が官僚性を捨て市民自治に徹底することを望むだけである。

市民の生活を見ながら、ホテルに戻ったのは、午後六時過ぎだった。上海の第一日はかなり疲れた。とにかく、五時間は歩いたのではないかと思う。いつ倒れるかも知れずにこの年齢でよく動いた。鈍感なのかもしれない。

九月一日、日曜日なので仕事は一日休みである。午前一〇時に、中国旅行社のTさんが迎えにくる。見学地は、豫園、旧英米租界地、旧仏租界地、旧日本租界地、魯迅旧居、同記念館などである。

日曜日のせいか、日本でも同じように、旧跡、名所は人の群である。この豫園も、ひと、ひと、ひとの群である。Tさんは貴重品を確かめて下さいという。豫園は庶民の休息のための庭園である。だが最近、少し物騒なのかもしれない。案内人の説明によると、豫園は、四水省（スーチョアンション）の地方官をしていた上海市出身の潘允端が両親のために造ったというのがはじまりであるという。一八五九年から一八年もかかって完成したというのだから気の永い話である。いまこんな奇特の人がいるだろうか。この四〇〇年の間に持ち主の代もいく度か代わったという。解放後の一九五六年、かなりの修復をしてから、一般庶民の公園として公開されたという。ものの本によると、その特徴は、「虚実相関」「以小見大」「疎密有致」といわれ、江南地方の庭園美をあますところなく伝えている。たしかに、ある庭園をみていると、遠近の景色を生かして、人間のやすらぎをうまくつくっている。造園の思想は歴史的味がある。

庭園は内庭と外庭とに分かれ、大小の樓閣がある。その広さは二万平方メートルで、三〇もの変化に富んだ

景色を楽しめるように造られている。潘允端は、親が官吏であったため、質素な生活をしいる。親のために、親が仕事を止めたなら、思う存分に心をいやせるようにと、上海に、全財力を投じて、山水と呼ばれる庭を作ったという。驚くばかりである。湖心亭を結んだ九つに曲がりくねった橋が九曲橋（ジウチュエイチャオ）である。園内は五つに分かれ、入口から順に大假山景区、万花楼景区、点春堂景区、王玲瓏景区、内園景区となっている。これらの景色を区分するのが、屋根の上に龍の彫刻をのせた塼である。この龍の足も、さまざまな形で、龍本来の足ではなく、必ず、一―二本を少なく彫刻している。というのは、龍そのままだと当局に罰せられるからだという。こうした景観が、家族に、若い男女に、静かに、心の憩いを与えている。豫園に隣り合わせで、下町情緒をかもしだしているのが市場である。日本の浅草というところであろう。雑貨、装飾品、おもちゃ、薬など何でも売っている。三五度の残暑にめげずによく歩いた。暑い。歩くたびに汗だくである。

(6) 上海の旧租界で、改めてその歴史を考える

豫園をあとにして、旧英米租界地をみる。「租界」という言葉は、私にとって抵抗語である。英米の支配者にとって「自由区」であったろうが、現地中国人にとっては、外国帝国主義の「支配区」であり、「差別区」であった。

黄浦江に沿って带状に位置している道路が中山東一路（チョンシャントンイールー）である。川沿いの地域は、かつての租界地の一部である。「外滩」（ワイタン）と呼ばれている。通称「バンド」といわれる。いまでも重厚な洋風建築物が並んでいる。例えば「上海大厦（ブロードウェイマンション）」、和平飯店（キャセイホテル）、国際海員倶楽部（インターナショナルシーメンズクラブ）、上海市人民政府（旧税関）が目立っている。かつて英国の中

国進出の拠点といわれた匯豐銀行（ファイフオンインハン）は中国共産党上海市委員会と上海市革命委員会の建物として使用されている。ドーム型の屋根の建物が上海市革命委員会である。この建物は、文化大革命のとき頭角を示した江青、張春橋、王洪文、姚文元ら四人組の拠点でもあった。七六年一〇月に四人組は失脚した。パブリック公園近くにタクシーをとめて、公園を散歩する。人の群れである。多くの人が黄浦江に面した岩壁から港をみている。かなりの外国人もいる。この港に面した散策路から、前記の建物をみると、ヨーロッパ風の姿をとどめている。パブリック公園の北側の橋が、ガーデン・ブリッジである。ここには、当時の列強の資本の支配が営蔵物の中に秘めている。

『中国・上海編』（JICC出版局、一九八九年七月刊、五六ページ）によると

「公共汽車（乗合バス）七一路、四八路が通る延安路は、ちょうど共同租界、フランス租界の境界線になっていた。北が共同租界で南はフランス租界。この一本の道路を隔てた両租界地には、今もひとつだけそのころの面影が残されている。

電柱の形が違うのである。共同租界は四角柱、フランス租界は三角柱、それぞれ電圧が二二〇ボルト、一一五ボルトと違っていたからである」と。

上海に最初に目を向けたのは、イギリス人である。一八三二年イギリス東インド会社のロード・アーマスト号が、長江から運河に入り、呉淞（ウーソン）まで到達したという（もちろん歴史的には一五〇〇年代からあること、それをここでは省略する）。そのとき、同会社のリンゼーが開港を求めたが当時の中国政府に拒否された。さらにイギリスはアヘン戦争前に、五港の開港を計画し、上海を最北の港として特定した。結局、アヘン戦争後一〇年たった一八四三年一月一七日南京条約の結果、イギリスは中国に対して強引に開港させた。イギリスは、

一八五四年以後、租界の拡張を主張した。帝国主義イギリスの姿がよくわかる。さらに一八六三年イギリスは支配を正当化するためアメリカと共同租界を作った。一方フランスも、イギリスに対抗して、上海に租界地を作り、約二五万平方メートルを占有地にした。

前述の文献によると、F・L・ホーリス・ポットの『上海史』は、こうかいてある。

「外国人居留地はひとつの家族のようなものであった。誰でもお互いに知り合った人だけであった。外国人は広い地所を構へて、大きな屋敷に住み、一寸と呼びさえすれば直ちに応じて侍る大勢の召使いを抱へ、まるで王侯のやうな生活をしていた。外国人は自己本位の民団の中で多くの広汎な特権を享有し、商業関係以外のことでは外部の支那民族とは何の掛り合いもなかった。……」

上海の外国人居留地は、治外法権区であり、英、米、仏のひとびとが、中国人をこき使い、「自由に」ふるまい、横暴をきわめていたといわれる。

私たちが見た旧共同租界地やフランス租界地は、いまは解放され、中国人民がのびのびと暮している。だが、その仕事と生活ぶりは、ちょうど、昭和三〇年代の日本の東京の下町のような風景であった。その背景に中国人の抵抗と解放と創造の精神と実践がある。これを学んだ。

英、米、仏の上海への「植民地」的統治は中国人民の抵抗となって表面化した。この歴史は偉業の歴史である。ここでは省略する。ところで、日本軍国主義の上海進出はおくれ、あせった。それは、一方で欧米列強への対抗と中国への侵略を企図した日本の支配層のパフォーマンスにみられた。それは「上海事変」に象徴されている。この「事変」は、日本と中国の間の戦争で、第一次上海事変、第二次上海事変にわたる。第一次は、日本が満州侵略の際におこした日中間の局地戦争であった。これは、日本の植民地化としての「満州国」の設

立を世界の目からそらし、中国人民の反日運動を抑えるための謀略戦争といわれた。それは日本の野ばんな侵略行為から出発した。当時関東軍参謀本部付陸軍少佐だった田中隆吉らが、板垣征四郎大佐らの命令で、中国人を買収し、一九三二年（昭和七年）一月、日本人僧侶を襲わせ、死傷させ、抗日運動の中心地上海に日中の険悪な状況をつくり、侵略を展開した。この事件をみると、中国側は、日本の抗議要求をのまされた。その結果、日本海軍は、日本租界に陸戦隊を配備し、中国軍と衝突した。これを足場に日本は上海の支配地域を作った。

この前後に、日本当局は、上海の蘇州河北の西端を南北に通ずる北四川路と、東端をそれと平行して作った地域、一般に虹口（ホンキウ）と呼ばれた「日本人街」「日本租界」という地域を支配し、日本人を多く住まわせるようにした。この「日本人租界」地域、つまり呉淞路地区には、当時五〇〇の日本人、崑山路には三〇〇人、南潯路には、二三五人が住んでいたといわれた。

一九二四年、作家村松梢風は、上海を『魔都』と呼びつまり上海での放蕩三昧の生活をかいたという。つまりヨーロッパ風の雰囲気の中で、上海の暗い、当時のたいはいの状況を描写したようである。だから魔都といったのかも知れない。いまは違う。解放後の上海は、工業の発展にみられる活力と新しい文化を模策する「魅力」あるまちになろうとしている。

Tさんに旧租界地を案内されながら、こんなことを考えていた。

(7) 魯迅の墓を訪ねる

Tさんは、クルマを四川北路の虹口公園に走らせた。私たちが望んでいた魯迅記念館、魯迅の墓に行った。

魯迅の上海生活は、一九二七年十月三日から約三年間であったという。尾崎秀樹氏は、『上海一九三〇年』（岩

波新書、一九八九年）で上海に着いた魯迅についてこうかいている。

「十月三日に上海に着いた魯迅は、八日には景雲里二十三号で許広平と新家庭をもったが、思えば北京女子師範の教師と女子学生としてはじまったふたりの間は、北京を去ってからの変転のなかで、ふかく結びあうものとなり、愛に発展し、ともに新しい生活をはじめるまでにいたったのだ」（同書、三七ページ）と。そして十月五日に内山書店に立ち寄ったという。魯迅の墓には「魯迅先生の墓」と毛沢東直筆の金文字が彫られ、その達筆さで光っている。墓前には、左手に本をもちゆったりと座っている魯迅の像がある。周辺には、二三の参拝者がいたが、公園は実にのびのびしていた。毛沢東は彼の「抗日闘争精神」「犠牲的精神」を高く評価したようである。

「記念館」を案内されたが、残念ながら、印度の詩人、タゴール展の会場にあてられ閉っていた。記念館の売店で、一時間程、休んだ。その店員に口説かれて李白と諸葛孔明の詩をかけた掛軸二点を購入した。

魯迅公園をあとに、クルマで故居、旧内山書店跡をみて、市場見学に行った。日曜日だったので、百貨店、露天街は、ひと、ひと、ひとの群れである。庶民の衣服、日用品は、実に安い。だがテレビ、カメラ、洗濯機などは高い。上海市民は、一般に、おとなしいし、表情も豊かである。

こうして上海の日曜日は終わった。九月二日は、宝山製鉄所を中心とした企業の研究のための調査である。この点は紙数の関係で省略した。ともあれ、上海はいま活力を求めている。上海市がもっとも魅力あるまちになることを期待して上海をあとにした。（一九九一年九月三十日脱稿）

追記

最後に余白をかりて、改めて大連、上海の両市のまちづくりと工業政策について感想を述べることにしたい。

両市のまちづくりの基本は、市民の自治、参加、分権の三原則を踏えた地域民主主義の貫徹でなければならない。中央政府、政党の集権的指導によるまちづくりでは、前進をみることはできないであろう。もちろん、一步ゆずって、中央政府や政党指導が、地域民主主義のまちづくりの条件を、最大限に作れば、まちづくりもかなり前進するであろう。だから、両市の指導部は、市民による、市民のための、市民のまちづくりに手をかすことである。

一方、工業地帯の活性化は、市民の所得向上に役立っている。この点を評価したい。だが本研究ノートでも随所で指摘したように、開発にあたって、必ず住民主体の環境アセスメントを制度化して貰いたい。

地球環境保全の環としての中国の環境政策を具体化してほしい。

また今後、中国が世界経済に対してどのように対応していくか、この点は改めて論じたい。

なお、本文中以外の内外の参考文献を参照した。関係者にお礼を申し上げたい。(一九九一年十二月二十五日)

〔補足資料〕

1. 大連地区への日系直接投資企業リスト（1990年5月末現在）

1. 大連経済技術開発区

(1) 独資（100％外資）企業

	企 業 名	日 本 側 企 業	事 業 内 容
1	万宝至馬達大連(有)	マブチモーター(株)	小型マグネットモーター製造 (1.4億本／年)
2	大連原田工業(有)	原田工業(株)	各種アンテナ（400万本／年）
3	医用材料 JMS 大連(有)	日本メディカルサプ ライ(株)	医療用材料（2,400t／年）
4	大連奥巴克(有)	日本オーバック(株)	マイクロモーター用ブラシ、 コンタクト・ターミナル製造
5	大連斯大精密(有)	スター精密(株)	プリンター、プザーの製造・ 販売
6	大連桑扶蘭絲綢(有)	沢本産業(株)	各種シルク製品（6万着／年）
7	大連藍標達宝石(有)	長崎経済貿易(有)	天然宝石製品の生産・販売
8	山口製作大連(有)	(株)山口製作所	自動車用ドアロック、シャフ トの生産
9	佳能大連弁公設備(有)	キャノン(株)	レーザープリンター、複写機 カートリッジ
10	大連選択電器(有)	進興電器(株)	電子機器、配線器具、照明器 具部品
11	大連北村閥門(有)	北村バルブ(有)	各種給排水バルブ（150万コ ／年）
12	大連富士電線電器(有)	富士電線電器(株)	工業用ダイヤモンド金型の修 理加工
13	大連小林産業(有)	小林産業(株)	木材、ダイヤモンド・チップ の加工・販売

(2) 合併企業

	企 業 名	日 本 側 企 業	事 業 内 容
1	大連華青実業(有)	長崎経済貿易(有)	落花生製品
2	大連遼恩(有)	ジャパンエンバ(株)	高級毛皮加工
3	大連発日海産食品(有)	(株)日本物産	蟹風味蒲鉾高級食品
4	大連大明餐具(有)	(株)明海	箸製造
5	大連 JMS 医療器具(有)	日本メディカルサプ ライ(株)	使い捨て医療器具
6	大連吉日銘木(有)	(株)伊勢戸銘木店他	銘木、板、家具部品
7	大連大青金属(有)	青木金属商事(株)	高級銅合金製品
8	大連赤外線(有)	日本赤外線工業(株)	光学部品
9	大連華日標準件(有)	遼寧実業公司	締付工具・金型
10	大連日清製油(有)	日清製油(株)、三菱商 事(株)他	植物油の原料加工 (18万 t/ 年)
11	大連富田服飾(有)	富田(株)、蝶理(株)、三 景(株)	背広、礼服、コート (30万着 /年)
12	南漢股份(有)	漢那実業(株)	貝類製品
13	開発区星海機械刃片(有)	木村刃物製造(株)他	機械工具用刃物
14	大連孔 羽毛絨(有)	華寧貿易(株)	高級羽毛服製品(12万着/年)
15	金山水産(有)	永興商事(有)	貝類、水産食品、大正エビの 餌料
16	大連長源(有)	長崎経済貿易(株) 茨木海苔(株)	加工海藻類、ウニ
17	大連三茲和無針注射器(有)	(株)ミツワ	無針注射器、注射器
18	大連大豊計算機応用開発(有)	HITEK (有)	コンピュータの技術開発
19	大連岩谷(有)	岩谷産業(株)	工業用ガス圧力器
20	大連華成食品(有)	李玉成氏	和菓子生産
21	大連高研新技術産業(有)	樋高義雄氏	ソフトウェア等研究生産
22	大連開発区新興電子娯楽(有)	古賀交易(株)	電子ゲーム営業
23	大連松竹船舶電子工程(有)	東京フクライト(株)	船舶電子設備の据付、調整

24	大連精工電子(株)	セイコー電子工業(株)	腕時計部品の生産販売 (1,300万セット/年)
25	大連華明閣酒店	華僑李明邦氏	各種料理と飲物
26	大連桜花飲食(株)	華僑李克武氏	中華料理、和・洋食の経営
27	開発区華州飯店	華州貿易	中華、和・洋食、弁当の経営

2. 大連経済技術開発区以外

(1) 独資（100%外資）企業

	企 業 名	日 本 側 企 業	事 業 内 容
1	林精密鑄造公司	ロストワックス鑄造 工業(株)	精密鑄造部品
2	大連微型電器(株)	マイクロ・モータ	精密マイクロ・モータ
3	大連三島食品(株)	三島食品(株)	高温殺菌包装食品、冷凍包装 食品

(2) 合併企業

	企 業 名	日 本 側 企 業	事 業 内 容
1	水産食品公司	浅海産業(株)	海産物、農作物の加工
2	東方食品公司	東京丸一商事(株)、栄 喜堂	食料品生産
3	徐園飲店	東光商事(株)	飲食業
4	中国江本公司	江本建設(株)	鉄骨構造物
5	中日淑美股份公司	沢本産業(株)	ブラジャー、スポーツ・ウェ ア
6	清水飯店	マース商事(株)	日本料理店
7	国際博覧中心	日航商事(株)	ホテル、展示場
8	連興花生製品公司	和光食糧(株)	ピーナッツ加工製品
9	海産公司	東京丸一商事(株)	水産物の加工、養殖
10	総新工芸公司	ラッキー商会(株)	貴金属アクセサリー
11	北方国際租賃公司	ニチメン(株)	リース業

12	岡野閥門(有)	岡野バルブ製造(株)	鍛造物の半製品・製品
13	三洋維修服務中心	三洋電機(株)	製品のメンテナンスサービス
14	向華經濟諮詢公司	向洋社	コンサルタント業務
15	佐連技術諮詢公司	佐谷物産(株)	コンサルタント業務
16	北幸電腦公司	三幸開発(株)	コンピュータ・ソフトの開発
17	神戸之海酒巴餐厅	神戸加西商事(株)	バー、レストラン
18	民航大厦	大和ハウス建設(株)	ホテル
19	友誼貨櫃集散公司	北九州運輸	コンテナ集配業務
20	大連金華実業公司	東辰興(株)	水産物、農業副産品の加工
21	偉嘉畜牧業発展公司	スジャロー	養鶏業
22	大連建島建築設計所	(株)ATU 建築設計所	企画、デザイン、設計
23	大連日豊養蝦(有)	日本水産(株)	大正エビの養殖
24	大連連同水産(有)	大同建設(株)	魚介・海藻類加工
25	連旦針織(有)	ニコニコ堂(株)	各種ニットウェア
26	旅友実業(有)	誠和貿易(株)	魚介・海藻類加工
27	大連富勝(有)	(株)日本工芸社	薬製敷物生産
28	大連北斗産業(有)	鎌田勲氏	高級革靴、皮革製品
29	大連海鋒水産(有)	先鋒漁業	活魚、貝、エビ、蟹等の水産品
30	大連亜希(有)	東京亜希(株)	服装デザイン・加工
31	長幸水産(有)	宝幸水産(株)	水産物の加工
32	金名対蝦養殖(有)	全球開発(株)	大正エビの養殖・加工・販売
33	宝華水産(有)	宝幸水産(株)	鮑、帆立貝、ウニ
34	国際之海酒巴(有)	S・K船舶公司	バー
35	大連重機技術中心	JUKI (株)	ミシンのメンテナンス
36	大連同興海水養殖公司	協同組合貿易公司	エビの養殖
37	大連紀美木製品(有)	都市計画(株)	寄木床材
38	三木木製品(有)	門特商社	割り箸
39	連亜(有)	(株)欧亜	精密測量機器作業台

40	東洋凹印刷版(有)	東洋インキ製造(株)	印刷版ローラー
41	河澤炭化(有)	池沢加工(株)	炭化粉殻
42	海日水産養殖(有)	兵庫県貿易(株)	大正エビ、貝類の養殖・加工
43	大連僑宏実業(有)	佐藤鉄工所	調味料、香辛料の生産
44	寧日食品(有)	兵庫県貿易(株)	海産物の加工
45	大連海辰水産(有)	東辰興(株)	魚介、海藻類等の養殖・加工
46	大連金城海産(有)	城南実業(株)	魚介、海藻類等の養殖・加工
47	大連大興養殖(有)	山興貿易(株)	大正エビの養殖
48	大連運東計算機系統(有)	東和システム(株)	ソフトウェアの開発・製作
49	大連連喜(有)	大阪喜多車両機械工業	各種鑄造部品の生産・加工
50	大連大和酒巴	(有)TIC	日本式バー
51	大連皮星海産(有)	海星物産(株)	貝類の養殖・加工
52	大連碧宇水产品	宇城(株)	ドジョウの養殖・加工
53	大連瓦口畜産(有)	大玉名畜産(株)	肉牛の飼育他
54	大連海安水産(有)	(有)長安	魚介・海藻類の養殖・加工
55	大連金鳳針織(有)	大鳳商事(有)	ニット製品、装飾品、工芸品
56	大連老虎灘水産(有)	全球開発(株)	魚介・海藻類の養殖・加工
57	大連秀月高分子材料技術開発(有)	里川孝臣氏	ポリエチレン・テフロン製品生産
58	大連華能—小野田水泥(有)	小野田セメント(株)	ケイ酸塩セメント、セメント加工製品
59	大連榮盛(有)	新盛工業(有)	薬製敷物、薬製品の生産加工
60	大連慶文工芸美術(有)	北九州小倉ホテル(有)	硝子壁画等工芸美術品の生産
61	大連橋信機械(有)	穂口正子氏	各種機械部品の生産
62	大連阿奇拉銅製品(有)	晟工業(株)	銅製品、銅製工芸品の生産
63	大連日中海産(有)	日中実業(株)	大正エビの養殖・加工
64	大連三連漁具(有)	山崎漁具(株)	各種漁具の生産
65	大連新興工芸陶瓷(有)	松江貿易(株)	陶磁器工芸品、装飾品の生産
66	大連鑫陽工芸品(有)	向陽(株)	紙製工芸品の生産

67	大連旅桑鑄鉄(有)	IK産業(株) 伊藤邦鑄造所	鑄造部品の生産
68	大連華友針織(有)	住友商事(株)	紡織繊維製品の生産
69	大連五鈴機械施工(有)	(株)鈴木商会	土木工事施工(掘削・採石)
70	大連明食食品(有)	明治屋産業(株)	生鮮馬肉及び同製品等
71	大連金栄海産(有)	東京企栄貿易(株)	貝類、海藻類の加工
72	大連金石灘海産(有)	カダ水産(有)	真鯛と帆立貝のいけす養殖
73	大連楽肯遊戯公司	(株)海龍貿易	パチンコ及び飲料水販売
74	大連順友水産養殖公司	宇城産業(株)	貝類、海藻類の養殖
75	大連開発区家庭用品公司	三浦卸屋(株)	研磨機、食品棚、洋服掛け
76	大連中広木製品(有)	広中貿易(有)	木製食器
77	大連星海水産(有)	不二技術サービス(株)	食品、昆布巻
78	大連雲山食品(有)	浅海(株)	冷凍食品
79	大連中連合成樹脂公司	(有)中武商会	各種合成樹脂
80	大連華瀛環達肥力公司	華僑盛玉光氏	複合肥料「田力宝」
81	大連華通鑄造(有)	広機通商	金属鑄造製品
82	大連雲山塑料包装(有)	華僑斉藤修子氏	プラスチック製品
83	大道信息諮詢公司	香港万友貿易公司	コンサルタント業務

(出所) 大連市対外経済貿易委員会外資処 (日中東北開発協会提供)

2. 中国の直接投資受入れ状況

(単位：億^F元)

	87 年		88 年		89 年		90 年	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
直 接 投 資	2,233 (49.1)	37.1 (30.9)	5,945 (166)	53.0 (42.8)	5,779 (-2.8)	56.0 (5.7)	7,276 (25.9)	65.7 (17.3)
合 併	1,395 (62.5)	19.5 (52.6)	3,909 (65.8)	31.3 (59.2)	3,659 (63.3)	26.6 (47.5)	4,093 (56.3)	n. a
合 作	789 (35.3)	12.8 (34.6)	1,621 (27.3)	16.2 (30.7)	1,179 (20.4)	10.8 (19.3)	1,317 (18.1)	n. a
100%外資	46 (2.1)	4.7 (12.7)	410 (6.9)	4.8 (9.1)	931 (16.1)	16.5 (29.5)	1,861 (25.6)	n. a
石 油 開 発	3 (0.1)	0.0 (0.0)	5 (0.1)	0.6 (1.1)	10 (0.2)	2.0 (3.6)	5 (0.0)	n. a

(注) 「直接投資」各項の()内は前年比伸び率(%)

「合併」「合作」「100%外資」「石油開発」の()内は直接投資全体を100とした内訳
(出所)「中国統計年鑑」各年版、「人民日報」(海外版)91.1.24

日興リサーチセンター『日本企業の注目集める大連』1991年3月 48～56ページにより作る

86	87	88	89	90
9,696	11,301	13,984	15,789	17,400
8.3	11.0	10.9	3.6	5.0
11.7	17.7	20.8	8.5	7.6
10.2	16.7	19.4	8.9	6.0
13.1	18.6	22.1	8.2	9.1
3.4	5.8	3.9	3.1	6.9
2,260	2,369	2,628	2,919	3,237
63	63	92	56	170
76	106	139	134	164
2,331	2,449	2,706	3,015	3,325
672	628	633	613	659
-71	-80	-79	95	-89
-209	-249	-349	-370	-423
1,218	1,454	2,134	2,344	2,300
5,382	6,572	7,426	9,014	11,035
7,590	9,032	10,551	12,409	13,839
6.0	7.3	18.5	17.8	2.1
309.4	394.4	475.2	525.4	620.6
56.5	74.0	98.6	111.5	120.5
429.1	432.1	552.7	591.4	533.5
98.6	82.5	94.8	85.2	61.3
-119.7	-37.7	-77.5	-66.0	87.1
-42.0	-8.5	3.8	26.3	59.2
105.1	152.4	175.5	170.2	258.7
237.5	353.0	424.1	448.6	N. A
3.4528	3.7221	3.7221	3.7651	N. A

3. 中国の主要経済指標

		80	81	82	83	84	85
生産	①国民総生産 (億元)	4,470	4,773	5,193	5,809	6,962	8,558
	②同上実質伸び率 (%)	7.8	4.5	8.7	10.3	14.6	12.7
	③工業生産伸び率 (%)	9.3	4.3	7.8	11.2	16.3	21.4
	重工業伸び率 (%)	1.9	-4.5	9.9	13.1	16.5	20.2
	軽工業伸び率 (%)	18.9	14.3	5.8	9.3	16.1	22.7
	④農業生産伸び率 (%)	1.4	5.8	11.3	7.8	12.3	3.4
財政	⑤歳入総額 (億元)	1,085	1,090	1,124	1,249	1,502	1,866
	内国債 (億元)	0	0	44	42	43	61
	対外借款 (億元)	43	73	40	38	35	29
	⑥歳出総額 (億元)	1,213	1,115	1,153	1,293	1,546	1,845
	基本建設 (億元)	419	331	309	383	489	584
	⑦財政赤字額 (億元)	-128	-26	-29	-44	-45	22
インフレ	実質赤字額 (億元)	-171	-99	-113	-133	-122	-68
	⑧現金流通高 (億元)	346	396	439	530	792	988
	⑨各種預金残高 (億元)	1,661	2,035	2,466	2,761	3,386	4,273
	⑩各種貸出残高 (億元)	2,040	2,765	3,052	3,431	4,420	5,906
貿易	⑪小売物価上昇率 (%)	6.0	2.4	1.9	1.5	2.8	8.8
	⑫輸出 (億 ^F _元)	181.2	220.1	223.2	222.3	261.4	273.5
	(内対日) (億 ^F _元)	43.2	52.9	53.5	50.9	59.6	64.8
	⑬輸入 (億 ^F _元)	200.2	220.2	192.9	213.9	274.1	422.5
	(内対日) (億 ^F _元)	50.8	51.0	35.1	49.1	72.2	124.8
	⑭貿易収支 (億 ^F _元)	-19.0	-0.1	30.3	8.4	-12.7	149.0
為替	(内対日) (億 ^F _元)	-7.5	1.9	18.4	1.8	-12.6	-59.9
	⑮外貨準備高 (億 ^F _元)	22.6	47.8	111.3	143.4	144.2	119.9
	⑯対外債務残高 (億 ^F _元)	45.0	58.0	83.6	96.1	120.8	167.2
	⑰年間対米 ^F _元 平均レート	1.4984	1.7045	1.8925	1.9757	2.3200	2.9367

- (注) 1. ⑫⑬⑭は中国海関統計
 2. 同対日収支は日本大蔵省統計
 3. ⑯は世銀「World Debt Tables」
 4. ⑧⑨⑩⑮の90年は9月末

(出所)「中国統計年鑑1990」及び「1990年国民経済・社会発展に関する統計公報」

4. 上海日中合作企業リスト

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
1	84.10	花園飯店(上海)	ホテル	5740万\$	野村中国投資	上海錦江聯営公司
2	84.10	上海七重天賓館	ホテル	95万\$	岩田事務所	上海廣播電視發展公司
3	85.7	上海日航龍拍飯店	ホテル	76億円	日本航空開発	上海錦江聯営公司
4	86.6	錦江余韻服裝公司	ファッション	200万元	ラストシーズン	錦江飯店
5	86.8	日中合作上海中医国立医療中心	中国医療サービス	30万\$	上海ヘルスクラ ブ	上海神衣康其院 上海中医学院
6	87.5	三聯香料(有)	化粧品用香料生 産	260万元	高砂香料 新曲通商	釜臣香料廠 日化開發公司土產分公司
7	88.7	上海国高原夫球俱樂部(有)	ゴルフ場及びカ ントリークラブ 建設と運営	1800.0万\$	青木建設	上海市体育服務公司等
8	88.8	上海西賀室内裝飾品(有)	人造花、人造織 物等	31.3万\$	西賀 对外贸易公司	興路共新綜合工廠
9	88.10	上海新泰食品(有)	甘栗の缶詰 ペコモの缶詰	14.7万\$	西川デパート	上海義仁泰食品廠
10	88.12	上海遼虹電子工業(有)	電子素材	12.5万\$	中遼電子工業	虹口区建築材料公司
11	89.2	上海申大医療科学發展公司	義歯、入歯等	66.6万\$	日本冲歯科特企 (株) 香港(巨広声)	上海申大公司 華東医院綜合服務部等
12	89.3	上海中立計算機(有)	コンピュータ ソフト開発及び そのアフター サービス	57.7万\$	立石電機(株)	上海国際科技公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
13	89. 6	上海河久餐厅	日本料理	3.1億円	大阪河久(株)	上海賓館
14	90. 7 30年	上海鈴蘭衛生用品(有)	ガーゼ包帯等	467万USドル	日本鈴蘭(株)	上海宝钢地区轻工業公司

5. 上海日本独資(出資100%) 企業一覧

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
1	84. 11	華栄実業股分(有)	ビル建設コンサルティング	41万\$	旅日華僑李鴻発	
2	88. 10	中国(海南) 金属広告公司上海分公司	各種広告			
3	89. 7	上海大洋塑料工艺公司	漆細工の皿	18.0万\$	大洋樹脂工業(株)	
4	89. 12	多利機電製造(有)	エアブライパー・軸受製造	20万\$	玖彩瑪有限公司	
5	90. 6 15年	上海科知計算機技術(有)	コンピュータソフト販売	15万USドル	日本科知\$	
6	90. 7 10年	上海光陽制鞋(有)	工艺美术品EVA発泡原板	100万USドル	日本本州(株)	

6. 上海日中合資企業リスト（これは大連と違った分類をしている）

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業（出資比率%）	中国側企業（出資比率%）
1	85. 2	虹麻繡品廠	刺繡製品	180万\$	麻島レーズ	上海景虹橋工業公司 上海市抽紗聯營出口公司
2	85. 2	上海太平洋大飯店(有)	ホテル	1200万\$	青木建設(45%) 日本興業銀行 (5%)	上海市旅游公司 虹橋聯合發展有限公司
3	85. 3	上海国際貿易中心(有)	貿易センター オフィスビル	1960万\$	興和不動産 (45%) 日本興業銀行 (5%)	上海對外貿易總公司 虹橋聯合發展有限公司 上海国際貿易信息和展覽公司
4	85. 4	国際租賃(有)	リース	390万\$	三井物産(33%)	中国技術進出口總公司 (33%) 中国投資銀行 (34%)
5	85. 4	佳来福(有)	各種靴の生産販売	35万\$	天豪 (25%)	南匯果航頭靴廠 中国工芸品進出口公司 上海分公司
6	85. 5	太平洋租賃(有)	リース	300万\$	日本リース (20%) 日本長期信用銀行 (5%)	上海對外貿易總公司 中国租賃有限公司 工商银行信託投資公司
7	85. 7	上海市国際房産(有)	不動産、賃貸	76500万円	丸紅 (30%) 大和ハウス工業 (30%)	上海對外貿易總公司 (40%)
8	85. 8	聯合租賃(有)	リース	300万\$	東洋信託銀行 (30%) ニチメン(10%) 日商岩井(10%)	中国工商银行上海分行 中国銀行上海信託有限公司 中国進出機械出口總公司 上海市分公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
9	85. 8	上海金山聯合実業(有)	簡易包装用 プラスチックの製造	100万\$	伊藤忠商事(19%) 香港華商実業	中国石化総公司 上海市石油化総廠
10	85. 8	浜鶴齒科材料(有)	人口陶歯の製造	4000万円	ビジュアル陶歯 (25%)	南匯県祝橋工業公司等
11	85. 0	上海国際機場賓館(有)	ホテル	1100万\$	シャロン(50%)	中国民航上海管理局 上海旅游服務公司
12	85. 10	上海中条管道工程公司	水道管敷設、修理	50万元	中条電機製作所 (40%) 亜光商会(10%)	上海自來水公司 上海投資信託公司等
13	85. 10	海命賓館	ホテル		山公司(10%)	新亜(集団) 聯営公司
14	85. 12	上海愛斯佩克環境儀器(有)	環境試験機器製造	590万元	タバイエスベック (50%)	上海実験儀器総廠(50%)
15	86. 1	上海国際程序控制公司	プロセス制御用 ハード・ソフト製造	49万\$	ユニオン・エンジニアリング (60%)	
16	86. 6	上海友友餐厅	日本料理レストラン	5.5万\$	正龍貿易(49%)	錦江聯営公司(51%)
17	86. 6	上海黒田手套(有)	皮手袋製造・輸出	85万元	黒田(株)、高島 (51%)	上海清芸手套版(49%)
18	86. 9	上海尼賽位傳感器(有)	センサー製造	86万\$	日本セラミックス (50%)	德福光電技術公司(50%)
19	86. 10	上海三菱電梯(有)	エレベーター製造	960万\$	三菱電機(15%) 香港・菱電工程 (25%)	上海機電実業公司(55%) 中国機械設備進出口公司 上海分公司(10%)

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
20	86.10	上海綵華露化粧品(有)	シャンプー製造	200万\$	スワロー化粧品業(50%)	上海市日用化学工業開発公司 上海日用化学品三炭
21	86.12	上海香可食品(有)	小豆あん	550万元	北海道商事(35%) 肯特国际貿易(5%)	上海市糖業煙酒公司(40%) 上海市對外貿易公司(20%)
22	87.1	上海寧惠皮製品(有)	安全手袋製造	74万元	湖広商事(50%)	奉賢県芳防用品廠(50%)
23	87.2	上海恒利金属工業(有)	非鉄金属製品及び金型、潤滑油		日本伸興工業株式会社 香港伊禾企業公司	第二鋼管廠 有色金属總公司 中国銀行信託諮問公司
24	87.3	上海申和織帛(有)	エザ製造	50万\$	誠和貿易(30%)	上海市對外貿易公司(25%) 崇明県對外貿易公司(20%) 崇明県良種養育場(25%)
25	87.5	上海香花橋服装(有)	衣料縫製	60万\$	サンテイ衣料大賀ソーイング	青浦県香花橋服装廠(50%)
26	87.5	上海新晃空調設備(有)	ファンコイルユニット製造	266万\$	新晃工業(50%)	上海市工業設備安裝公司(50%)
27	87.6	上海世界時装(有)	衣料縫製・販売	120万\$	ワールド(51%)	上海服装公司(49%)
28	87.7	上海三和医療器械廠	床ずれ防止エプロン製造	80万元	三和化研工業(50%)	嘉定県馬陸郷第一工業公司(50%)
29	87.10	上海華鐘床子(有)	婦人用ナイロン靴下製造	18000万円	カネボウ(45%)	上海市十九綿紡織廠(55%)

No	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
30	87.10	上海住益戸田建設(有)	建設業	100万元 (10年)	戸田建設(45%) 三菱銀行(5%)	第一住宅建築工程公司 (40%) 第六住宅建築工程公司 (18%) 中国房産建設開發協公司 上海分公司(9%) 中国銀行信託有限公司 (9%)
31	87.10	上海延中実光打光机(有)	ライター製造		(株)実武総代表 (40%)	延中複印工業公司(60%)
32	87.9	上海麦斯特建材(有)	セメント増量材 製造	280万元	日曹マースタービ ルマーズ(60%)	上海建築防水材料廠(40%)
33	88.4	上海寅豊服装(有)	ウールズボン生 産	95.0万\$	豊島、セイコ産 業(50%)	上海寅豊毛紡織版(50%)
34	88.6	上海娜麗斯化粧品(有)	各種化粧品製造	500万元	ナリス化粧品 (50%)	上海日用化学品四版
35	88.6	上海日冷食品(有)	冷凍食品製造・ 輸出	32,700万円	ニチレイ(50%)	上海吳淞冷库(50%)
36	88.6	上海新日相米(有)	豊の生産	30.0万\$	東方国際貿易	奉賢県新寺郷工業公司
37	88.6	上海神明電機(有)	電子部品ハー ンツ	625.6万\$	神明電機	上海無線電16廠
38	88.7	上海新尧紡織製品(有)	染色糸	40.0万\$	飛鳥	新芸毛紡織有限公司 松江新橋郷工業公司
39	88.7	上海華陽服装(有)	男女ドレス	35.0万\$	松亀被服	松江華陽服装版
40	88.7	上海栄安針織(有)	各種ニット製品	71.5万\$	義東	長江農場
41	88.9	東方医療経済技術諮詢(有)	医療技術経済の 交流	22.4万\$	日中医薬経済技 術振興会鈴謙	中国医薬对外経済技術合 作総公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
42	88.10	上海啓明軟件(有)	コンピュータ のソフト開発	107.5万\$	日本コンピュータ ター	華東計算機研究所
43	88.10	上海迪吉服装(有)	各種服装の生産 販売	42.0万\$	日本 DG	紡織品進出口公司 上海絲綢分公司
44	88.11	上海絲金時裝(有)	女性用服装	149.2万\$	蝶理 絲金總本社	中国服装連出口公司上海 分公司 北橋工業公司
45	88.11	上海愛思旅行用品(有)	各種カバン	456.8万\$	A C E (株) ACE カバン(株)	上海友誼箱包廠
46	88.11	上海大河針織(有)	各種服装、ニッ ト製品	140.0万\$	三河物産	上海農良種繁育場 上海針織一廠 上海棉紡25廠
47	88.11	上海連翅亭餐厅	日本料理、カラ オケ	50万\$	日本国際食品、 万達	上海大厦
48	88.12	上海福島玻璃製品(有)	ガラス鋼製品	40.3万\$	福島県郡山市 トラック輸送(株)	南市区上海環球水箱版
49	88.12	上海寶露達(有)	家庭用雑貨	18.1万\$	セルタン(株)	廠新軟墊廠
50	88.12	上海黄楼合成皮革製品(有)	PU 合成革	500.0万\$	日本国商連(株)	川沙県黄楼工業公司 外資公司等
51	88.12	上海愛思金属(有)	カバンの金具	140.0万\$	ACE カバン 千曲産業	吳淞工業公司 光明電鍍廠
52	89.1	上海東平化工業実業公司	プラスチックチ ック	115.0万\$	支台ビーエフ・ テール	上海市科学技術開発総公 司
53	89.1	上海杉並工芸品(有)	アークセサリー	5.4万\$	礐山(株)中国金陵 印社	宜川房間工芸美術廠

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
54	89. 1	上海野尻眼鏡(有)	金属眼鏡フレーム製造	180.0万\$	野尻眼鏡工業(株) (40%)	上海眼鏡總廠(40%) 錦江聯營公司(20%)
55	89. 2	上海小糸車灯(有)	自動車用ランプ製造	1349.0万\$	小糸製作所 (45%) 豊田通商(株)(5%)	上海拖拉机汽車工業公司 (50%)
56	89. 2	上海生命船軟件(有)	コンピュータソフト開発及びそのアフターサービス	10万\$	生命船重州太平洋公司(55%)	上海広達技術開発公司 (45%)
57	89. 2	上海古北興隆発展(有)	不動産投資・開発	1416万\$	日高興産 香港大隆洋行	上海古北新区聯合発展公司
58	89. 3	上海長江毛紡織(有)	ウール織物	200万\$	光洋毛糸(株)(50%)	江海郷工業公司
59	89. 3	上海英華紡織品(有)	服装・ベットの用品	53.7万\$	日本英福貿易公司 (32%)	長寧区工商聯經濟開發公司 牟寧実業公司
60	89. 3	上海未来工業服装(有)	服装・カーデンス等	20万\$	貿易未来(50%)	上海鼓風機変技術応用服務部
61	89. 4	上海尤尼松電子(有)	半導体ダイオード	215万\$	尤尼松(株)(29%)	半導体器件四廠(71%)
62	89. 4	上海華都國際集裝箱(有)	コンテナ及びその部品製造	400万\$ 1350万\$	日本国上海都市 開發(株)(30%)	上海久事公司 閔行船廠市航運公司(70%)
63	89. 4	上海宇虹食品工業(有)	和式小豆及び中華・洋式菓子	23.6万\$	日本宇宙(株)	虹口經濟技術發展總公司
64	89. 4	上海柏卡瀨精化工(有)	金属表面処理用化学剤	100万\$	日本柏卡瀨精(株) 蝶理(株)	嘉定供銷合作社 沈陽柏卡瀨精總公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
65	89. 5	上海未来軟件(有)	コンピュータソフト開発	34.0万\$	(株)未来 (50%)	上海海徳技術発展公司
66	89. 5	上海藍藍中国藍印花布社	藍印花布	13.4万\$	京都久保麻紗中国藍印花布店	上海紡織品分公司
67	89. 5	上海虹橋快速印刷(有)	快速印刷	40万\$	日本国鳳凰国際企画(株) (50%)	上海交通大学南洋国際技術公司
68	89. 5	上海依里申紡織(有)	毛糸、紡毛生地	450万\$	意山(株) (55%)	上海外経貿実業公司 虹橋郷工業公司
69	89. 6	上海三景服装(有)	服装生地	15.4万\$	三景(株) (64%)	南匯県瓦屑郷服装廠
70	89. 7	上海世界針織(有)	ウールセーター	250万\$	(株)山崎マリヤス (20%) (株)ナカボウ (10%)	世界時装有限公司(70%)
71	89. 8	上海大計数据处理公司	データベース用ハード開発	41.7万\$	ダイケイ (80%)	上海上投実業公司(20%)
72	89. 8	上海康培尔服装(有)	セビロ・コート	60万\$	中国物産中心(株) (50%)	上海錦柔服装廠 (50%)
73	89. 10	上海新世纪制衣(有)	子供服	38.5万\$	産業貿易(株) (40%)	上海新新服装公司(40%) 新聯紡績品進出口公司 (20%)
74	89. 10	上海里拉酒吧(有)	バー	16.0万\$	東亜エンタテインメント(株)	上海飛鶴国際旅游公司
75	89. 11	上海紀本電子儀器(有)	環境測定機器	30万\$	紀本電子工業(株)	長寧区工業絵公司
76	90. 2 15年	上海香花橋蒸熨(有)	スチームアイロン作業	100万USドル	三泰衣料(株)	上海青浦香花橋郷工業公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
77	90.2 15年	上海大字生化(有)	炭酸カルジウム 製造	40万USドル	宇城産業(株)	上海春明橡塑助剂廠
78	90.2 20年	上海光電医用電子儀器(有)	各種心電図機等	270万USドル	日本光電工業(株) 太陽交易(株)	上海医用電子儀器廠
79	90.3 10年	上海三樓高科技建(有)	先進建築設計図 の複製	40万USドル	三平建設(株) 櫻富士産業(株)	上海閘北区建築設計室
80	90.3 20年	上海龍華包裝(有)	各種紙箱生産	201.5万USドル	日本華僑宋勝雄 先生	瀘浦紙箱廠 對外經濟貿易公司
81	90.4 10年	上海華鐘計算機軟件開發(有)	計算機ソフト開 発	28万USドル	日本鐘紡(株)	上海南洋國際技術公司
82	90.5 15年	上海皮愛膚日用化学品(有)	各種美容石鹼	158.4万USドル	日本大阪P & PF(株)	上海影星化粧品廠
83	90.5 15年	上海紅商事渡辺久士手套(有)	各種手袋	25万USドル	日本紅商事(株) 渡辺久士(株)	上海群芸手套廠
84	90.6 10年	上海高木紡績設計製図(有)	印花用トレージ ソクペーパー	11.2万USドル	日本高木彫刻(株)	楊浦区工人俱樂部總台服 装部
85	90.6 15年	上海東方後藤電子工業(有)	各種音響機器用 コイル	42万USドル	東方國際貿易(株) (有)後藤工業	上海市仁和実業(有)
86	90.6 25年	上海重機縫紉機(有)	各種小型縫製ミ シン	426万USドル	日本重機(株)	上海聯合縫紉機公司
87	90.7 30年	上海東昌・大和衡器(有)	各種秤	440万USドル	日本大和製衡(株) 東和貿易(株)	上海東昌計算機 中国銀行信託諮詢公司
88	90.7 15年	上海高雅服装(有)	高級スーツ	214万USドル	日本辰野(株) (株)大丸	上海第二毛紡織廠 松江県車教郷工業公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
89	90. 8 10年	上海万達水産品(有)	カワハギ製品の加工	26.4万USドル	伊藤萬(株)	黄浦副食品経営総公司広達経営部
90	90. 8 20年	上海康泰克電子技術(有)	計算機ソフト開発	100万USドル	日本 CONTEC(株) 香港寧星国際(有)	上海市計算機開発公司
91	90. 9 15年	上海厚誠口腔医院	歯科問診医療・義歯加工販売	77万USドル	日本昭徳商事(有)	上海郵電医院総合服務部
92	90. 9 15年	上海奥野機械設計製造(有)	各種パネ機械	26.4万USドル	(株)奥野機械制作所	上海市机床研究所試験場
93	90. 9 10年	上海凱達縫製品(有)	靴の側面部分及び付属縫製品	20万USドル	日進ミム(株) 千曲産業(株)	上海凱達電子電器廠 上海对外贸易公司
94	90.10 30年	上海森松圧力容器(有)	営業用圧力容器、部品及び金属構造物	95万USドル	森松工業(株)	上海市楊園圧力容器製造廠
95	90.10 15年	上海力川塑料製品(有)	プラスチック板、材、角材、管材及び高加工プラスチック製品	143万USドル	菊川化工(株)	上海市川沙県努力溶接廠
96	90.11 15年	上海新航堅果(有)	カシューナッツの加工輸出、製油	40万USドル	新世紀(株)	南匯県航頭郷工業公司
97	90.11 10年	上海新昌進出口商品整理服務(有)	貨物整理、包装、検査	150万USドル	三井物産(株) 三井倉庫(株)	中国对外贸易運輸総公司 上海分公司
98	90.11 11年	上海東申信息技術(有)	計算機ソフト制作販売及びサービス	48万USドル	(株)アイ・ジー・エス	中国科学院上海冶金研究所 信茂新技術公司

No.	批准年月	合資企業名	業務内容	資本金	日本側企業(出資比率%)	中国側企業(出資比率%)
99	90.11 10年	上海申万醸造(有)	甘酒製造	170万USドル	マンスブライオン(株) 東邦物産(株)	上海市食品進出口公司 上海宝山区飲食公司
100	90.11 15年	上海黒田金冠皮革製品(有)	中高級皮手袋	42万USドル	黒田株式会社	上海中聯皮革製品聯营

(出所) 「中国統計年鑑」各年版、その他、横浜市経済局の上海経済貿易事務所の資料から作る。
なお、日本側、中国側の出資比率は部分的にしか確認できなかった。(清水)

On the Social Economic Development of Shanghai City and Dalian City in China

Y. Shimizu

SUMMARY

This report has been written chiefly on research of area of the industrial and port of Shanghai city and Dalian city in China during from 28 August to 3 September in 1991.

The major contents of this report can be summarized as follows.

The port of Dalian has got a first upon import and export foreign trade cargo in China and established foreign trade transport relation with more than 140 countries and regions all over the world. The port of Dalian tie together the economic technical development zone.

Japan's enterprise found a larger market in this area. Japan's business meet with success in this zone owing to the Chinese cheap labour power.

On the one hand, Chinese economy developed owing to the direct investment by Japan's business and other major countries business.

Shanghai seek to the vitality of urban. The Foreign direct investment has increased the chance of employment and has brought the vitality of Shanghai. But the choices we have made over the years have, for better or worse, largely China history. Shanghai city is the largest city of the world. Shanghai city has developed as a industrial city, as a commercial city, as a city of port, and as a financial city.

As more people seek a high quantity of life, there may be a gradual shift of the social system away from the delegatory. But more people have a low standard of living. So that, they seek to the stabilization of livelihood getting over difficulties before the war.

I had pleasure the chance to introduce that citizen of both city seek to the vitality of life and the future of urban.